

# Gentran:Server<sup>®</sup> for Windows<sup>®</sup>

シングル  
ワークステーション  
インストール ガイド  
バージョン 5.0

**Sterling Commerce**  
An IBM Company

## 著作権に関する表示

### Gentran:Server for Windows

© Copyright 1995 - 2004  
Sterling Commerce, Inc.  
ALL RIGHTS RESERVED

### スターリング コマース ソフトウェア

#### 営業秘密に関する表示

GENTRAN:SERVER FOR WINDOWS ソフトウェア (「スターリング コマース ソフトウェア」) は、米国スターリング コマース社、その関連企業またはそのライセンスの機密と営業秘密を有する財産であり、プロダクト使用契約の条件に基づいて提供されます。事前の書面による許可のない複製または開示は禁じられています。権利は制限されています。

本資料、本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェア、およびそれらに含まれる情報とノウハウは、スターリング コマース、その関連企業またはそのライセンスの専有的な、秘密の、財産的価値を有する営業秘密であり、許可されていない目的のために使用することおよび適正なスターリング コマースからの事前の書面による承認を受けることなく第三者に開示することは禁じられています。本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは、その複製、変更および使用を禁止または規制する条項が規定されたプロダクト使用契約に基づいて提供されます。複製を許可された場合には、複製が部分的であるか全体的であるかを問わず、その複製物にこの営業秘密表示とスターリングコマースの著作権表示を表示するものとします。

FAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料が提供された場合は、Title 48 CFR 52.227-19 による制限付きの権利として提供されます。また、DFAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料とスターリング コマース ソフトウェアが提供された場合は、商業用ソフトウェアと商業用ソフトウェア資料に関する Title 48 CFR 227-7202 の記載に基づくスターリング コマースの一般的な実施許諾契約に基づいて提供されます。

これらの条件の準拠法は、米国オハイオ州法 (法の抵触に関する規定を除く) が適用されます。締結済みの契約に基づいてスターリング コマース ソフトウェアを使用している場合には、これらの条件は当該締結済み契約に優先するものではなく、また、これを修正するものでもありません。

本資料に記載されている製品名は、該当各社の商標または登録商標である場合があります。Gentran 及び Gentran:Server はスターリングコマースの登録商標です。

### サードパーティソフトウェア

スターリング コマース ソフトウェアの一部には、サードパーティ (「サードパーティ ライセンサ」) から提供された製品 (「サードパーティソフトウェア」) が含まれる場合や、サードパーティソフトウェアと同一の記録媒体で配布される場合があります。

### 保証の放棄

本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは「現状のもの」として、またはスターリング コマースのプロダクト使用契約で規定された「限定保証」とともに提供されるものとします。「限定保証」以外には、商品性および特定目的への適合性を含みいかなる明示的および黙示的保証も行われません。スターリングコマースは適宜本表示を改訂し、又はその内容を変更できるものとし、その改訂又は変更をいかなる個人又は法人に対しても通知する義務を負わないものとします。

サードパーティソフトウェアは、商品性の黙示的保証および特定目的への適合性を含めて (ただしこれらに限定されない)、いかなる保証ならびに明示的および黙示的保証も伴わずに「現状のもの」として提供され、いかなる保証も行われません。また、米国国内に居住するか、本ソフトウェアを米国国内で使用している場合、所有権または権利の非侵害に関する明示的および黙示的保証は行われません。

# 目次

## 本書について

<b>概要</b> .....	<b>vi</b>
▶ はじめに .....	vi
<b>本書について</b> .....	<b>vii</b>
▶ 本書の構成 .....	vii
▶ このマニュアルで使用する主な用語 .....	ix
<b>サポートの概要</b> .....	<b>xiii</b>
▶ サポート情報 .....	xiii

## システムの概要

<b>概要</b> .....	<b>1-2</b>
▶ はじめに .....	1-2
<b>システムの概要</b> .....	<b>1-3</b>
▶ インストールの前提条件 .....	1-3
▶ Gentran:Server の概要 .....	1-4
▶ インストール コンポーネント .....	1-6
▶ システム コンポーネント .....	1-8
<b>システム要件と推奨事項</b> .....	<b>1-10</b>
▶ 概要 .....	1-10
▶ ハードウェア .....	1-11
▶ オペレーティング システム .....	1-13
▶ データベース .....	1-14
▶ インストール後のセキュリティに関する推奨事項 .....	1-15

## シングル ワークステーション システムのインストール

<b>概要</b> .....	<b>2-2</b>
▶ はじめに .....	2-2
▶ シングル ワークステーションの概要 .....	2-3
▶ インストール プロセス .....	2-4
▶ 新規インストール チェックリスト .....	2-6
<b>Windows の構成</b> .....	<b>2-7</b>
▶ 概要 .....	2-7
▶ Windows の構成方法 .....	2-8
▶ システム データ ストア フォルダを作成して共有する方法 .....	2-9

<b>Gentran:Server のインストール</b> .....	<b>2-11</b>
▶ インストール前チェックリスト .....	2-11
▶ Gentran:Server セットアッププログラムの使用 .....	2-18
▶ シングルワークステーションシステムのインストール方法 .....	2-19
▶ Gentran Standards のインストール方法 .....	2-39
<b>Gentran:Server のアップグレード</b> .....	<b>2-40</b>
▶ Gentran:Server インストールのアップグレード方法 .....	2-40

## インストール後の作業

▶ はじめに .....	3-2
▶ Gentran:Server システムの起動方法 .....	3-3
▶ セキュリティの実装方法 .....	3-7
▶ コミュニケーションズの実装方法 .....	3-8
▶ Gentran:Server のインストールを検証する方法 .....	3-9

## SQL Server 2000 のセットアップ

<b>概要</b> .....	<b>A-2</b>
▶ はじめに .....	A-2
▶ インストール前の要件 .....	A-3
▶ データベースのバックアップ方法 .....	A-4
<b>Gentran:Server における SQL Server の使用</b> .....	<b>A-5</b>
▶ 概要 .....	A-5
▶ SQL Server を Gentran:Server 用に構成する方法 .....	A-6
▶ データベースにユーザーを追加する方法 .....	A-13
▶ Gentran:Server 用に ODBC DSN を作成する方法 .....	A-18

## ORACLE® のセットアップ

<b>概要</b> .....	<b>B-2</b>
▶ はじめに .....	B-2
<b>Gentran:Server とともに使用する ORACLE のセットアップに関する推奨事項</b> .....	<b>B-3</b>
▶ 概要 .....	B-3
▶ すべてのコンピュータへの SQL *Net® のインストール .....	B-4
▶ データベース テーブル用の新しいテーブルスペースの定義 .....	B-5
▶ 新しい DB 管理者アカウントの作成 .....	B-6
▶ ORACLE に Gentran ユーザーを追加する方法 .....	B-7
▶ ORACLE への Gentran:Server エグゼクティブ ログオン アカウントの追加 .....	B-9
▶ オープン カーソルの既定値を変更する方法 .....	B-11
▶ Gentran での標準セキュリティ モードの使用 .....	B-12
▶ Gentran:Server における Oracle データベース ODBC ドライバの使用 .....	B-13



# インストールのトラブルシューティング

- ▶ 概要 .....C-2
- ▶ Gentran:Server のインストールのトラブルシューティング .....C-3
- ▶ InstallShield のエラーメッセージ .....C-7



# 本書について

## 目次

---

<b>概要</b> .....	<b>vi</b>
▶ はじめに .....	vi
<b>本書について</b> .....	<b>vii</b>
▶ 本書の構成 .....	vii
▶ このマニュアルで使用する主な用語 .....	ix
<b>サポートの概要</b> .....	<b>xiii</b>
▶ サポート情報 .....	xiii

---

## 概要

## はじめに

### はじめに

---

スターリング コマースの電子商取引 (EC) ソフトウェア、Gentran:Server<sup>®</sup> for Windows<sup>®</sup> をご購入いただきありがとうございます。

Gentran:Server には、トレーディング パートナーとの電子データ交換に必要な次のツールが用意されています。

- ▶ データトランスレーション
- ▶ プロセス管理
- ▶ コミュニケーションズ システム

このソフトウェアおよびサポート ツールは使いやすく、業務にすぐ役立てることができます。

### Gentran:Server のインストール

---

Gentran:Server for Windows のインストールには、Windows およびデータベース製品の構成も関係します。Gentran:Server のインストールを開始する前に、必要な作業をすべて確認してください。

#### メモ

Gentran:Server オプション パック ソフトウェアをインストールするための CD キーは、Gentran:Server 製品とともに出荷されたパッキング リストに記載されています。

---



# 本書について

## 本書の構成

### はじめに

このマニュアルでは、Gentran:Server (シングルワークステーションシステム) のインストールの準備、およびインストールの手順を説明します。また、Gentran:Server のインストールおよび運用を簡単にするための、推奨されるシステム構成についても説明します。

タスクの手順を解説しているこのマニュアルは、ステップバイステップ方式で Gentran:Server のインストールに関するあらゆる質問に答えることを目的として書かれています。

### 本書の対象読者

このマニュアルは、次の作業を担当するシステム管理者を対象にしています。

- ▶ EC のインストールおよび実装
- ▶ データベース製品のインストールおよび実装

### 前提知識

このマニュアルは、PC および Microsoft® Windows Server の機能、およびデータベース管理について習熟しているユーザーを対象としています。

### 本書の内容

この『インストールガイド』は、複数の章で構成されています。各章の概要を説明します。

- ▶ 「序章」では、このマニュアルの内容、構成、および表記規約について説明します。またこのマニュアルで使用する主な用語を定義し、Gentran:Server のサポートを受ける方法についても説明します。
- ▶ 第1章「システムの概要」では、Gentran:Server のソフトウェアおよびインストールコンポーネントの概要、およびインストール用語について説明します。また、システム要件および推奨システムについても説明します。
- ▶ 第2章「シングルワークステーションシステムのインストール」では、Gentran:Server を初めてインストールおよび実装する方法について説明します。ここでは、Windows オペレーションシステムの構成、データベース管理システムのインストールと構成、および Gentran:Server のインストールなどについて説明します。
- ▶ 第3章「インストール後の作業」では、Gentran:Server のインストールを完了するために必要な追加作業について説明します。ここでは、システムの起動、セキュリティの実装、およびインストールの確認などについて説明します。

(次のページへ続く)

**本書の内容 ( 続き )**

- ▶ 付録 A 「SQL Server 2000 のセットアップ」では、SQL Server 2000 を新しくインストールおよび構成するための作業を説明します。
- ▶ 付録 B 「ORACLE のセットアップ」では、Gentran:Server とともに使用する ORACLE の設定に関する推奨事項を説明します。
- ▶ 付録 C 「インストールのトラブルシューティング」では、Gentran:Server インストールのトラブルシューティングに関する基礎的な情報を提供し、一般的なインストールの失敗を解決するために必要な作業の方針について説明します。また、InstallShield<sup>®</sup> のエラーメッセージについても説明します。

## このマニュアルで使用する主な用語

### はじめに

このセクションでは、このマニュアルで使用する Gentran:Server 用語を定義します。これらの用語を理解してから、このマニュアルを読み進めるようにしてください。

### Gentran:Server エグゼクティブ

"Gentran:Server エグゼクティブ" とは、定義されたサーバー上のコミュニケーションおよびトランスレーション機能の実行を制御する Gentran:Server サービスのことです。Gentran:Server エグゼクティブは、Gentran:Server システムの "プライマリ Gentran システムコントローラ" (使用しているコンピュータ) にインストールされます。また、Gentran:Server エグゼクティブは、重要なシステム情報の集中管理も行います。

### Gentran スケジューラ

"Gentran スケジューラ" は Gentran:Server エグゼクティブのコンポーネントで、スケジュールされたイベントについて、設定された間隔でイベントのタイミングを確認します。

### Gentran ポーラ

Gentran ポーラは Gentran:Server エグゼクティブのコンポーネントで、あらかじめ設定された間隔で指定されたファイルの存在をポーリングします。

### ODBC

"ODBC (オープン データベース コネクティビティ)" は、異なるベンダのデータベースを Gentran:Server で利用する場合に使用されます。

### インテグレーション コンポーネント

"インテグレーション コンポーネント" はオプションのコンポーネントで、Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムおよびフォーム インテグレーション サブシステムのユーザー インターフェイスを提供します。

- ▶ アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、インポート、エクスポート、およびターンアラウンド ドキュメントのトランスレーション オブジェクトを作成できます。
- ▶ フォーム インテグレーション サブシステムでは、画面入力および印刷のトランスレーション オブジェクトを作成できます。

また、インテグレーション コンポーネントを使うと、Gentran Standards にアクセスして新しいトランスレーション オブジェクトを作成することもできます。

(次のページへ続く)

---

**クライアント  
アクセス  
コンポーネント**

"クライアント アクセス コンポーネント" は、Gentran:Server システムの設定、管理、および制御を行うためのユーザー インターフェイスを提供します。

---

**コミュニケーション  
コントローラ**

"コミュニケーション コントローラ" は、Gentran:Server とデータ交換の相手である組織 (付加価値ネットワーク (VAN) またはトレーディング パートナー) とのコミュニケーションを制御します。

**メモ**

- ▶ コミュニケーションコントローラになるコンピュータには、モデムなどのコミュニケーション機器を介してファイルの送受信ができる機能が必須です。
- ▶ シングルワークステーションでは、3つのコントローラ (コミュニケーションコントローラ、プロセスコントローラ、およびプライマリ Gentran システムコントローラ) のすべてを同一のコンピュータに配置します。

---

**システム構成**

システム構成プログラムを使うと、Gentran:Server システム全体に影響する次のような構成パラメータを変更できます。

- ▶ システム データ ストア フォルダ
- ▶ セキュリティ モード
- ▶ クライアント通知パラメータ
- ▶ オーディット パラメータ
- ▶ コントローラ設定
- ▶ 時間切れ受信確認のチェックの間隔
- ▶ 受信確認生成の間隔
- ▶ 受信確認整合の間隔
- ▶ ファイルの自動連結の間隔
- ▶ システムで使用される ODBC データ ソース
- ▶ インポート指定
- ▶ 分割機能エントリ
- ▶ ユーザー パラメータおよびログオン
- ▶ Gentran:Server エグゼクティブ、Gentran スケジューラ、および Gentran ポーラ サービスの停止と開始

---

**システム データ  
ストア**

システム データ ストアは、共有 Gentran:Server データのリポジトリです。システム データ ストアは、使用する シングルワークステーション コンピュータに置かれます。Gentran:Server システムにはシステム データ ストアを1つだけ置くことができます。

(次のページへ続く)

## 通知

"通知"サブシステムでは、通知パラメータ(指定されたオーディットメッセージまたは一連のメッセージ)を設定することにより、定義済みのイベント(Gentran:Server オーディットメッセージ)が発生する時点を事前に通知できます。通知パラメータを指定して、次の任意の組み合わせを、オペレータユーザーインターフェイスでオペレータとして定義されたユーザーに送信するように指定できます。通知プログラムを実行するクライアントのユーザーインターフェイスへのメッセージボックスによる警告、Eメールメッセージ、指定した1つ以上のメッセージがオーディットログに書き込まれた際の指定したデジタルページャー番号の通知、または、1つ以上の指定したメッセージが発生した場合に実行を指定したプロセス管理の処理の自動実行。

### 参照

オペレータユーザーインターフェイスの使用の詳細については、『管理ガイド』の「オーディット通知システムの使い方」を参照してください。

### メモ

- ▶ プロセス管理で"通知"タイプのイベントとしてセットアップされたプロセス管理イベントのみ、定義済みのイベントが発生した場合に実行するタスクとして選択することができます。
- ▶ プロセス管理で一時停止されたタスクを指定した場合には、定義済みのイベントが発生してもタスクは実行されません。

## データベース

Gentran:Serverは、使用しているコンピュータ上の"関係するデータベース"にシステムデータを格納します。このデータベースを使用すると、複数のユーザーが同じデータにアクセスできます。データベーステーブルは実際のデータを示すインジケータを含んでおり、システムデータストアの中にあります(システムデータストアは、すべての共有Gentran:Serverデータの保管場所です)。Gentran:Serverでは、ODBC(オープンデータベース接続性)を使って異なるベンダのデータベースを利用します。

### メモ

Gentran:Serverとの使用が認証されているデータベース管理システムを確認するには、『インストール準備カード』を参照してください。

(次のページへ続く)

---

**プライマリ  
Gentran システム  
コントローラ**

"プライマリ Gentran システム コントローラ" は、Gentran:Server の用語です。GENTRAN:Server システムで使用される、シングルワークステーション コンピュータを指します。プライマリ GENTRAN システム コントローラは、システム全体のステータス情報の管理、システム内の処理要求の管理と効率的な処理、およびその他のシステム コンポーネントの制御を行います。

**メモ**

- ▶ プライマリ Gentran システム コントローラは、"プライマリ ドメイン コントローラ"とは異なります。"プライマリ ドメイン コントローラ"は Windows の用語です。
- ▶ シングルワークステーションでは、3つのコントローラ(コミュニケーションズコントローラ、プロセスコントローラ、およびプライマリ Gentran システムコントローラ)のすべてを同一のコンピュータに配置します。

---

**プロセス  
コントローラ**

"プロセスコントローラ"コンポーネントは Gentran:Server ソフトウェアの一部であり、システム内の処理要求の管理および実行を調整します。プロセスコントローラを使うと、システムのトランスレーション負荷が分散され、高速かつ効率的なスループットを得ることができます。

**メモ**

シングルワークステーションでは、3つのコントローラ(コミュニケーションズコントローラ、プロセスコントローラ、およびプライマリ Gentran システムコントローラ)のすべてを同一のコンピュータに配置します。

---

# サポートの概要

## サポート情報

### はじめに

スターリング コマース社では、Gentran:Server ソフトウェアに関する質問や問題についてお答えするため、熟練した製品サポート担当者によるサポートを提供しています。

#### メモ

Gentran:Server のカスタマ サポートは、スターリング コマース社以外の製品 (SQL Server、Oracle など) のサポートは行っていません。ただし、他社の製品を Gentran:Server と併用できるように構成するサポートは提供しています。

### 電話番号

ご利用になるサポート電話番号は、『インストール準備 カード』を参照してください。

### サポートに連絡する前に

迅速なサポートを提供するため、以下の事項についてご協力をお願いします。

- ▶ まず、発生した問題を再現してみて、イベントの正確な順序を記録してください。
- ▶ 製品サポートへのお問い合わせの際には、下記の情報をご用意ください。

情報	説明
ユーザー情報	会社名、氏名、電話番号および内線番号、およびケース番号 (以前に報告された問題を照会する場合)。
システム構成	<p>Gentran:Server バージョン (およびインストールされているサービスパック)、プライマリ Gentran システム コントローラおよび問題が発生しているすべてのコンピュータの情報。Windows オペレーティングシステムのバージョン、搭載メモリ、有効ディスク容量、データベースバージョン、Microsoft Data Access (MDAC) のバージョン、および Internet Explorer のバージョン。</p> <p>ハードウェア、ソフトウェア、およびシステムの構成に対して加えた最近の変更も記入してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

情報	説明
システム データ ストア	どのコンピュータがシステム データ ストア内にフォルダを格納しているのか。
エラー メッセージ	表示されたエラー メッセージの正確な語句表現とソフトウェアでのエラーが発生した時点、およびログファイルも記録してください。
試みた解決策	問題の解決を試みた際の手順とその結果の記録、推定される問題の発生回数と問題を再生することができるかどうかを報告してください。

### スターリング コマース社 Support Web Site (英語)へのアクセス

スターリング コマース社 Customer Support Web Site は Gentran:Server for Windows のサポートに関する以下の重要な情報が記載されています。

- ▶ サポート サービスの範囲
- ▶ カスタマ サポート ポリシー
- ▶ 優先コール
- ▶ カスタマ サポートの電話番号一覧
- ▶ Support on Demand ケースの作成方法
- ▶ Support on Demand ケースのステータスの確認方法
- ▶ Support on Demand ケースへの情報追加の方法

Customer Support Web Site は常にアップデートされており、スターリング コマース製品のユーザーの皆様にご利用いただけます。この Web サイトには、最新の製品アップデート情報が記載されています。製品情報に関する重要な情報源としてご活用ください。

### 参照

Customer Support World Wide Web Site へのアクセス方法に関する情報については、『インストール準備 カード』を参照してください。

### マニュアル

Customer Support Web Site にはドキュメント ライブラリがあり、Gentran:Server for Windows マニュアル セットがすべて含まれています。随時このライブラリから製品マニュアルを PDF フォーマットでダウンロードできます。



# システムの概要

目次

---

<b>概要</b> .....	<b>2</b>
▶ はじめに .....	2
<b>システムの概要</b> .....	<b>3</b>
▶ インストールの前提条件 .....	3
▶ Gentran:Server の概要.....	4
▶ インストール コンポーネント.....	6
▶ システム コンポーネント .....	8
<b>システム要件と推奨事項</b> .....	<b>10</b>
▶ 概要 .....	10
▶ ハードウェア .....	11
▶ オペレーティング システム.....	13
▶ データベース .....	14
▶ インストール後のセキュリティに関する推奨事項 .....	15

---

# 概要

## はじめに

### 始める前に

---

インストールを始める前に、Gentran:Server システムの構成とインストールに関する概念を理解しておく必要があります。

このマニュアルでは、システムの構成およびインストールの作業手順、必要なリソース、および入手する必要がある情報について説明します。

#### 推奨事項

このマニュアルの各セクションを読んだ上で、ワークシートを完成するようにしてください。

### 本章の内容

---

この章には次のトピックが含まれています。

- ▶ Gentran:Server の概要
  - ▶ システム要件と推奨事項
  - ▶ インストール コンポーネント
  - ▶ システム コンポーネント
  - ▶ インストール後のセキュリティに関する推奨事項
-

# システムの概要

## インストールの前提条件

### はじめに

Gentran:Server for Windows のインストールでは、Windows とデータベース製品の構成も必要になります。Gentran:Server のインストールを開始する前に、必要な作業をすべて確認してください。

### 必要な担当者

システムの構成と Gentran:Server のインストールを行う前に、適切な担当者の協力を確保する必要があります。次の理由から、システムとデータベースの管理者がインストール作業に参加することを強くお勧めします。

- ▶ シングルワークステーションコンピュータには、そのコンピュータに対する管理者権限のある Windows ログインを使用してログオンする必要があります。
- ▶ システム データ ストアのインストール先であるフォルダとの共有フォルダを作成しなければなりません。
- ▶ 新規データベースを作成しなければならず、そのデータベースヘユーザーの追加が必要になる可能性もあります。

上記の作業を行う権限を持つのは、通常システム管理者のみです。

### 注意

Gentran:Server の構成およびインストールにシステム管理者が関わることは、非常に重要です。

## Gentran:Server の概要

### はじめに

Gentran:Server for Windows は、データトランスレーション、プロセス管理、およびコミュニケーション機能をまとめたシステムで、Microsoft Windows 環境で動作します。この製品は、EDI および同様のデータ型のトランスレーションとコミュニケーションのために設計されています。

### プロセス管理

プロセス管理システムにより、扱いにくいアドオンではなく、アプリケーションのエクステンションとして、Gentran:Server を多様な業務アプリケーションと統合することができます。Gentran:Server は、インテリジェントかつ大容量のメッセージサーバーシステムで、様々な業務システムをリンクし、既存の業務プロセスと World Wide Web のリンクを提供します。

### コミュニケーションシステム

Gentran:Server は、社内業務システムを相互にリンクしたり、世界中の顧客および供給元が使用する業務システムとリンクします。Gentran:Server は、直接回線や付加価値ネットワーク (VAN) を介してアプリケーション間メッセージをルーティングし、顧客や供給業者とのトランザクションを完全に自動化します。トランスレーションは、定義済みのスケジュールまたはイベントに基づき、1日24時間、年中無休で自動的に行うことができます。これにより、業務を合理化することができます。

### 自動処理モード

Gentran:Server は、自動処理モードでも動作します。エラーが発生した場合、または人員の介入が必要な場合には、指定された担当者にページャーまたはシステムメッセージを介して通知されます。オーディットの記録やメッセージのトラッキングにより、メッセージがプロセス内のどこにあるかをいつでも正確に知ることができます。

### Gentran:Server エグゼクティブサービス

Gentran:Server では、Gentran:Server エグゼクティブ サービスを使って、コミュニケーションとトランスレーション機能の実行が管理されます。Gentran:Server エグゼクティブをサービスとして実行すると、システムにログオンしているユーザーがいなくても、Windows のサーバー コンピュータで Gentran:Server を実行できます。

#### Gentran ポーラ

Gentran ポーラは Gentran:Server エグゼクティブのコンポーネントで、あらかじめ設定された間隔で、指定されたファイルの存在をポーリングします。

#### Gentran スケジューラ

Gentran スケジューラは Gentran:Server エグゼクティブのコンポーネントで、スケジュールされたイベントについて、設定された間隔でイベントのタイミングを確認します。

(次のページへ続く)

**Windows 環境**

---

Gentran:Server は、Windows 環境に最適なように設計されています。シングルワークステーションのコンピュータでは、Windows 2000 Server、Windows 2003 Enterprise Edition、Windows 2003 Standard Edition、または Windows 2000 Professional オペレーティングシステムが実行されていることが必要です。

Gentran:Server は Windows 環境において、" データベース "、" システム データ ストア "、および " プライマリ Gentran システム コントローラ " の連携により運用されます。これらのシステム コンポーネントは、使用するシングルワークステーションにインストールされます。

---

## インストール コンポーネント

### はじめに

インストール コンポーネントは **Gentran:Server** の機能コンポーネントで、**Gentran:Server** をシングル ワークステーション コンピュータにインストールする際に選択できます。システムのインストール コンポーネントは、次のとおりです。

- ▶ クライアント アクセス コンポーネント
- ▶ プロセス コントローラ (シングル ワークステーション コンピュータに自動的にインストールされます)
- ▶ インテグレーション コンポーネント

このセクションでは、**Gentran:Server** のインストール コンポーネントについて詳しく説明します。

### クライアント アクセス コンポーネント

クライアント アクセス コンポーネントは、次のような **Gentran:Server** システムの設定、管理、および制御を行うためのユーザー インターフェイスを提供します。

- ▶ 電子商取引 (EC) マネージャ (データ管理コンポーネント) は、高度なナビゲーション ツールであるほかに、ドキュメント管理ツールとしての機能もあります。このコンポーネントには、ドキュメント、インターチェンジ、オーディット、レポート、プロセス管理、コミュニケーション、およびトランスレーション オブジェクトの情報を表示し、管理するための多くのウィンドウ、ブラウザ、およびダイアログ ボックスがあります。
- ▶ パートナー エディタでは、自社およびトレーディング パートナーのすべてのパートナー情報を定義、編集、削除することができます。
- ▶ ドキュメント エディタは、ドキュメントの作成、変更、および表示を行うことができるデータ入力ツールです。
- ▶ 通知サブシステムでは、通知パラメータ (指定した 1 つまたは一連のオーディット メッセージ) を設定することにより、定義済みのイベント (**Gentran:Server** オーディット メッセージ) の発生をいち早く通知できます。通知パラメータを指定して、次の任意の組み合わせを、オペレータ ユーザー インターフェイスでオペレータとして定義されたユーザーに送信するように指定できます。通知プログラムを実行するクライアントのユーザー インターフェイスへのメッセージ ボックスによる警告、E メール メッセージ、指定した 1 つ以上のメッセージがオーディット ログに書き込まれた際の指定したデジタル ページャー番号の通知、または、1 つ以上の指定したメッセージが発生した場合の実行を指定したプロセス管理の作業。

#### 参照

オペレータ ユーザー インターフェイスの使用の詳細については、『管理ガイド』の「オーディット通知システムの使い方」を参照してください。

(次のページへ続く)

### クライアント アクセス コンポーネント (続き)

- ▶ システム構成プログラムを使うと、Gentran:Server をインストールした後で、システム全体に影響する構成パラメータを変更できます。システム データストア フォルダの変更、セキュリティ モードの定義または再定義、システム インポート 指定の追加、変更、または削除、分割機能オプションの変更、クライアント通知パラメータの定義、ユーザーの追加、変更、または削除、システム内のコントローラでの Gentran:Server サービスの停止および開始、システム内のすべてのコントローラの設定変更、およびシステムの ODBC データ ソースとオーディット設定の変更が可能です。
- ▶ メールボックス サーバー マネージャーを使用すると、Gentran:Server のメールボックス システムを管理できます。

### プロセス コントローラ

Gentran:Server プロセス コントローラは、既定では常にプライマリ システム コントローラにインストールされます。プロセス コントローラ機能は Gentran:Server エグゼクティブ サービス (RPCSRV.EXE) によって実行されます。EC マネージャで提供されているほとんどの機能や、構成した自動処理セッション イベントを実行するには、このサービスが起動していることが必要です。

#### メモ

プロセス コントローラ コンポーネントは、シングル ワークステーション コンピュータに自動的にインストールされます。プロセス コントローラ コンポーネントでは、各プロセス コントローラに Gentran:Server エグゼクティブ サービスがインストールされます。システムで自動処理を正常に実行するには、このサービスをプロセス コントローラ上で起動しておく必要があります。

### インテグレーション コンポーネント

インテグレーション コンポーネントはオプションのコンポーネントで、Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムおよびフォーム インテグレーション サブシステムのユーザー インターフェイスを提供します。

- ▶ アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、インポート、エクスポート、およびターンアラウンド ドキュメントのトランスレーション オブジェクトを作成できます。
- ▶ フォーム インテグレーション サブシステムでは、画面入力および印刷のトランスレーション オブジェクトを作成できます。これらのトランスレーション オブジェクトを Gentran:Server に登録し、トレーディング関係の一部として選択した場合、インバウンドで受信またはアウトバウンドで送信する EDI ドキュメントの入力や印刷を簡単に行うことができます。

また、インテグレーション コンポーネントを使うと、Gentran Standards にアクセスして新しいトランスレーション オブジェクトを作成することもできます。

Gentran Standards ファイルは、CD からアクセスするか、コンピュータのハードディスクに転送することができます。

## システム コンポーネント

### はじめに

Gentran:Server システムは、複数の論理コンポーネントで構成されています。各システムには、次のコンポーネントがあります。

- ▶ プライマリ Gentran システム コントローラ
- ▶ システム データ ストア
- ▶ データベース

このセクションでは、Gentran:Server システムのシステム コンポーネントについて詳しく説明します。

### プライマリシステム コントローラ

各 Gentran:Server には、プライマリ Gentran システム コントローラが 1 つだけあります。プライマリ Gentran システム コントローラは、システム全体の状態情報の管理、システム内のサーバー処理要求の管理と効率的な処理、およびその他のシステム コンポーネントの制御を行います。

システムのプロセス コントローラ コンポーネント、Gentran:Server エグゼクティブ サービスおよび Gentran:Server メールボックス サービスは、自動的にプライマリ Gentran システム コントローラにインストールされます。さらに、オプションで次のインストール コンポーネントをプライマリ Gentran システム コントローラ (シングルワークステーション コンピュータ) にインストールすることもできます。

- ▶ クライアント アクセス コンポーネント
- ▶ インテグレーション コンポーネント

#### 推奨事項

どちらのコンポーネントも、シングルワークステーションシステムにインストールすることをお勧めします。

### システム データ ストア

各 Gentran:Server システムには、システム データ ストアを 1 つのみ置くことができます。システム データ ストアは、すべての共有 Gentran:Server データの保管場所になります。

(次のページへ続く)



---

## データベース

Gentran:Server では、リレーショナル データベースを使用して、トラッキング、オーディット、プロセス管理、トランザクション オブジェクト、およびパートナー情報をテーブルに格納します。データベース テーブルには実際のデータへのポインタが含まれていて、実際のデータはシステム データ ストアの中にあります。システム データ ストアは、すべての共有 Gentran:Server データの保管場所です。このリレーショナル データベースを使用することで、複数のユーザーが同じデータにアクセスできるようになります。Gentran:Server では、ODBC を使用することで、異なるベンダーのデータベースを利用できるようにします。関連するデータベースは、シングル ワークステーション コンピュータにインストールされます。

---

# システム要件と推奨事項

## 概要

### はじめに

---

このセクションでは、シングルワークステーションシステムの構成に関する推奨事項を説明します。このセクションで推奨されるシステム構成に従えば、Gentran:Server システムのインストール、保守、管理、およびサポートがより簡単になります。

#### 参照

Gentran:Server システム コンポーネントとの使用が認証されている Windows およびデータベース管理システムのバージョンを確認するには、『インストール準備カード』を参照してください。

---

# ハードウェア

## 推奨されるハードウェア

次に、推奨されるハードウェアを示します。本番環境で最高のシステムパフォーマンスを得るには、ここに説明する推奨事項に従うようにします。これらの推奨事項では、コンピュータにオペレーティングシステム、データベース管理システム、および Gentran:Server のみをインストールすることを前提としています。ソフトウェアを追加すると、ハードウェアの増設が必要になる場合があります。

ハードウェア	推奨																																																																													
プロセッサ	<p>Pentium III 以上のプロセッサ (最低要件 : Pentium II プロセッサ) 高性能のデスクトップ用システムではなく、サーバー用のハードウェアを購入されることを強くお勧めします。サーバー用のハードウェアは、デスクトップ用のものよりも信頼性が大幅に高く、より高性能です。トランスレーションやコミュニケーションを並行して行う必要がある実装では、マルチプロセッササーバーの導入を検討してください。</p>																																																																													
空きディスク領域	<p>Gentran:Server の導入に必要なディスク領域は、次の計算で正確に見積もることができます。</p> <p>(インバウンド データの総計 × データ保持期間) + (アウトバウンド データ総計 × データ保持期間) × 6 + 500 MB (システム オーバーヘッド)</p> <p>例 : 1 日当たり平均で 10MB のインバウンド データと、20MB のアウトバウンド データを処理するとします。データは 14 日間システムに保持しておくものとします。</p> <p>この場合、計算は次のようになります。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>インバウンド</td> <td>—</td> <td>10MB</td> <td>X</td> <td>14 日間</td> <td>=</td> <td>140MB</td> </tr> <tr> <td>アウトバウンド</td> <td>—</td> <td>20MB</td> <td>X</td> <td>14 日間</td> <td>=</td> <td>280MB</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-----</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>420MB</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>X 6</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-----</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2620MB</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>+500MB</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-----</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3120MB</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(3.2GB)</td> </tr> </table> <p style="text-align: right; color: green;">(次のページへ続く)</p>	インバウンド	—	10MB	X	14 日間	=	140MB	アウトバウンド	—	20MB	X	14 日間	=	280MB							-----							420MB							X 6							-----							2620MB							+500MB							-----							3120MB							(3.2GB)
インバウンド	—	10MB	X	14 日間	=	140MB																																																																								
アウトバウンド	—	20MB	X	14 日間	=	280MB																																																																								
						-----																																																																								
						420MB																																																																								
						X 6																																																																								
						-----																																																																								
						2620MB																																																																								
						+500MB																																																																								
						-----																																																																								
						3120MB																																																																								
						(3.2GB)																																																																								



( 続き ) ハードウェア	推奨	
メモリ (RAM)	<p>この場合も、必要なメモリ容量は、トランスレーションの対象となるデータの量から見積もることができます。見積りに使用する式は、(1日に処理する入力データ量) + (1日に処理する出力データ量) となります。これは、処理されるデータが1日を通じて分散されていることを前提としています。</p> <p>データを4時間以内に処理しなければならない場合、必要なメモリ容量については1行下の値を参照してください。</p>	
	1日に出力されるデータの量	必要最小限のRAM容量
	25MB データ未満	64MB RAM
	25MB - 50MB データ	128MB RAM
	50MB - 100MB データ	256MB RAM
	> 100MB データ	<p>単独サーバーまたは分散バージョンの <b>Gentran:Server</b> へのアップグレードを検討してください。</p>
CD-ROM	推奨します。	
マウス	推奨します。(またはその他のポインティング装置)	
モニタ	<p>SVGA 256 カラー モニタ (アプリケーション インテグレーションおよびフォーム インテグレーションでは、17 インチ、1024 × 768 の解像度のものを推奨)</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server を適切に表示するには、モニタでは800x600 ピクセルの解像度がサポートされていることが必要です。</p>	
コミュニケーションズ	外部とのコミュニケーションをサポートするモデム	

## オペレーティング システム

### 必要なオペレーティングシステム

---

シングルワークステーションのコンピュータでは、Windows 2000 Server、Windows 2003 Enterprise Edition、Windows 2003 Standard Edition、または Windows 2000 Professional がインストールされている必要があります。

### 参照

Gentran:Server システム コンポーネントとの使用が認証されている Windows のバージョンを確認するには、『インストール準備 カード』を参照してください。

---

## データベース

### データベース要件

---

リレーショナルデータベース管理システム (RDBMS) をインストールしておく必要があります。

#### 参照

Gentran:Server とともに使用できるデータベース製品管理システムについては、『インストール準備カード』を参照してください。使用するデータベースのインストールの要件および推奨事項については、このマニュアルのデータベースに関する付録を参照してください。

### ODBC の要件

---

コンピュータには、使用する RDBMS 用の適切なドライバとともに、ODBC (Open Database Connectivity) をインストールしておく必要があります。

Gentran:Server では、ODBC を使用することで、異なるベンダーのデータベースを利用できるようにします。通常、ODBC と適切なドライバは、RDBMS とともにインストールされます。

#### 参照

Gentran:Server システム コンポーネントとの使用が認証されているデータベース管理システムおよび ODBC ドライバのバージョンを確認するには、『インストール準備カード』を参照してください。

---

## インストール後のセキュリティに関する推奨事項

### はじめに

Gentran:Server のセキュリティ機能を使用すると、不正なアクセスからデータを保護すると同時に、権限のあるユーザーには容易なアクセスを提供できます。また、Gentran:Server のセキュリティ機能を使用すれば、Windows オペレーティングシステムとデータベース製品の統合機能を利用することもできます。

このセクションでは、Gentran:Server セキュリティの構成に関する推奨事項を示します。セキュリティの構成は、Gentran:Server をインストールした後で行います (Gentran:Server のセキュリティ設定の詳細については、『管理 ガイド』の「システム構成 - [セキュリティ] タブ」を参照してください)。推奨事項に従ってセキュリティを構成すれば、ユーザーが容易に Gentran:Server にアクセスできるように設定できます。

### セキュリティ モード

Gentran:Server では、3 つのセキュリティ モードがサポートされています。"統合"、"混合"、および"標準"。

#### 推奨事項

Gentran:Server とデータベースのセキュリティ モードは同じにしておくことをお勧めします。また、Oracle データベースを使用する場合を除き、"統合" セキュリティ モードを使用することをお勧めします。Oracle データベースでは、"標準" セキュリティ モードを使用しなければなりません。

### 統合

"統合" セキュリティ モード (推奨) では、暗号化パスワード、パスワードの有効期間の設定、ドメイン全体のユーザー アカウントなどといった、Windows オペレーティングシステムのセキュリティ機能を利用できます。このモードでは、Gentran:Server と Windows のユーザー ID が同じであれば、ユーザーが Gentran:Server へのサインオンを要求されることはありません。このモードでは、1 つのシステムのみが構成されている場合、ログインに失敗するか、ユーザーが Windows からログアウトし、別のユーザーがログインする場合を除き、別のユーザーとして Gentran:Server にログインする機会は与えられません。ログインに失敗した場合、[ログイン] ダイアログ ボックスが表示され、システムにアクセスできるようになります。

(次のページへ続く)

**混合**

"混合"セキュリティモードでは、ログインのたびに Gentran:Server の [ログイン] ダイアログ ボックスが表示され、入力を求められます。既定値は、Windows のユーザー名です。ユーザーの Gentran:Server ユーザー ID が Windows のユーザー ID と同じ場合は、[ログイン] ダイアログ ボックスで **[OK]** をクリックします。この場合は、パスワードの検証は行われず、ユーザーは Gentran:Server にログインできます。既定のユーザー名を変更した場合は、パスワードの入力を求められ、Gentran:Server にログインする前に検証が行われます。このモードを使用すると、自分のユーザー ID を使用して簡単にログインできますが、別のユーザーとしてのログインも可能となります。

**標準**

"標準"セキュリティモードでは、毎回 Gentran:Server へのログインを行う必要があります。[ログイン] ダイアログ ボックスでは、Windows のユーザー名が既定値として表示されます。

**推奨される  
セキュリティ方針**

次に、セキュリティの構成に関する推奨事項を示します。

- ▶ Gentran:Server とともに使用するデータベースには、同じセキュリティモード ("統合"、"混合"、または "標準") を設定して、データベースへ個別にログオンしなくてもいいようにします。
- ▶ SQL サーバーの場合、"統合"セキュリティモードを使用して、暗号化パスワード、パスワードの有効期間の設定、ドメイン全体のユーザー アカウントなどの、Windows オペレーティング システムのセキュリティ機能を利用できるようにします。
- ▶ Oracle の場合、"標準"セキュリティモードを使用することが必要です。
- ▶ "統合"セキュリティモードで Gentran:Server を実行する場合は、各ユーザーの Gentran:Server ユーザー ID を、Windows ユーザー ID と同一に設定する必要があります。これにより、ユーザーは Gentran:Server へログオンしなくてもすむようになります。



# シングルワークステーションシステムのインストール

目次

<b>概要</b> .....	<b>2</b>
▶ はじめに .....	2
▶ シングルワークステーションの概要.....	3
▶ インストールプロセス.....	4
▶ 新規インストールチェックリスト.....	6
<b>Windows の構成</b> .....	<b>7</b>
▶ 概要 .....	7
▶ Windows の構成方法.....	8
▶ システム データ ストア フォルダを作成して共有する方法.....	9
<b>Gentran:Server のインストール</b> .....	<b>11</b>
▶ インストール前チェックリスト .....	11
▶ Gentran:Server セットアッププログラムの使用.....	18
▶ シングルワークステーションシステムのインストール方法.....	19
▶ Gentran Standards のインストール方法.....	39
<b>Gentran:Server のアップグレード</b> .....	<b>40</b>
▶ Gentran:Server インストールのアップグレード方法.....	40

## 概要

### はじめに

---

#### 本章の内容

この章には、Gentran:Server をシングル ワークステーション システム (1 台のコンピュータ) にインストールする場合に必要な情報が記載されています。

#### メモ

初めて Gentran:Server をインストールした後は、システムの起動、システムへのユーザーの追加、コミュニケーション ポートの作成、インストールの検証など、ほかの実装作業を行う必要があります。

次のセクションには、インストールを計画する場合や Gentran:Server を初めてインストールする場合に必要な情報が記載されています。

#### 推奨事項

セットアップ プログラムを使って Gentran:Server をインストールする前に、これらの作業を行ってください。

---

#### 前提条件

この章では、適切な Windows オペレーティング システムに加え、SQL Server または Oracle がコンピュータにすでにインストール済みであると想定しています。

#### 参照

Gentran:Server でサポートされているオペレーティング システムやデータベース管理システムのバージョンについては、『インストール準備 カード』を参照してください。

またこのインストールでは、Windows、および SQL Server や Oracle の用語や機能について基本的に理解しており、データベース管理者 (DBA) やシステム管理者にアクセスできることを前提条件としています。

---

## シングルワークステーションの概要

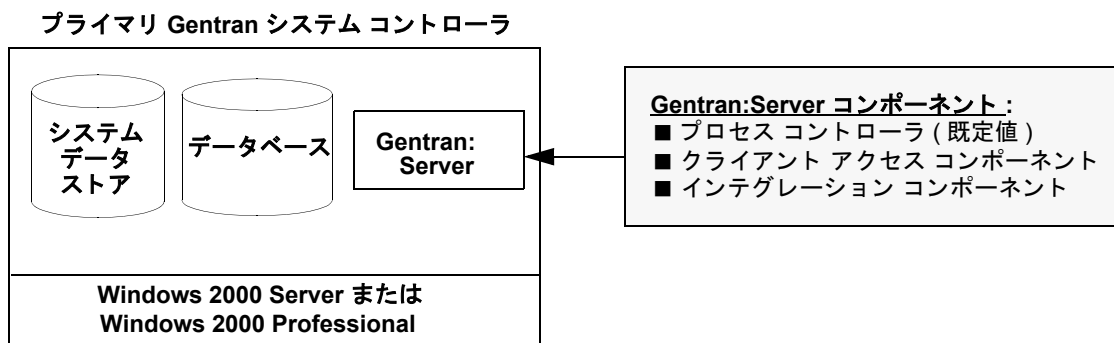
### はじめに

シングルワークステーションは1台のコンピュータで構成されるシステムです。このシステムでは、Gentran:Serverの必要なコンポーネントがすべて1台のコンピュータにインストールされます。

このコンピュータにGentran:Serverをインストールするには、セットアッププログラムの[新規のGentran:Serverシステムを作成]オプションをオンにして、このコンピュータをプライマリGentranシステムコントローラにします。

### シングルワークステーションシステムの例

次の図は、1台のコンピュータがすべてのGentran:Serverインストールコンポーネントを含む、シングルワークステーションシステムの例を示しています。



## インストール プロセス

### プロセス

次の表に、シングル ワークステーション システムに Gentran:Server をインストールする場合に必要な作業をまとめます。Gentran:Server の大まかなインストール手順として参考にしてください。

作業	説明
1	<b>ユーザーの作成と確認：</b> シングル ワークステーション コンピュータで、新しいユーザーを追加し、Gentran:Server ユーザーの既存の Windows ログインを確認します。
2	<b>Windows グローバル グループの作成とユーザーの追加：</b> シングル ワークステーション コンピュータで、すべての Gentran:Server ユーザーを含むグローバルグループを作成し、作成したグループに Gentran:Server ユーザーの Windows ログインを追加します。
3	<b>Windows ローカル グループの作成とグローバルグループへのアクセスの許可：</b> シングル ワークステーション コンピュータで、作成したグローバルグループを含むローカルグループを作成します。
4	<b>Windows ユーザー権利のローカルグループへの追加：</b> シングル ワークステーション コンピュータで、ローカルグループに Gentran:Server で必要なユーザー権利を付与します。
5	<b>システム データ ストア フォルダの作成および共有設定：</b> Gentran:Server をインストールする前に、システム データ ストア フォルダを作成して、作成したユーザーグループで共有できるように設定する必要があります。
6	<b>データベースのインストールおよび構成：</b> 詳細な手順については、使用しているデータベース管理システムの種類に対応する付録を参照してください。
7	<b>Gentran:Server のインストール：</b> セットアッププログラム (Gentran:Server のインストール CD) を使用して、Gentran:Server をインストールします。  (次のページへ続く)

( 続き ) 作業	説明
8	<p><b>オプションパックのインストール：</b> オプションパックのセットアッププログラム (Gentran:Server Option Pack CD) を使用して、購入した Gentran:Server オプションをシングルワークステーションコンピュータにインストールします。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server オプションパック ソフトウェアをインストールするための CD キーは、Gentran:Server 製品とともに出荷されたパッキングリストに記載されています。</p>
9	<p><b>Gentran Standards のインストール：</b> インテグレーション コンポーネントを選択した場合は、適切な Standards CD のセットアッププログラムを使用して、Gentran Standards をインストールします。</p>
10	<p><b>Gentran:Server システムの起動：</b> Gentran:Server エグゼクティブ サービスがコンピュータでまだ起動していない場合は、Gentran:Server を使用する前に起動する必要があります。</p>
11	<p><b>セキュリティの実装：</b> Gentran:Server のセキュリティ モードを指定し、システムにユーザーを追加します。</p>
12	<p><b>コミュニケーションズの導入：</b> コンピュータにモデムと共有を設定します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、関連するマニュアルを参照してください。</p>
13	<p><b>インストールの検証：</b> これらのステップで、インストールを検証することができます。</p>

## 新規インストール チェックリスト

### はじめに

このセクションにはインストール前チェックリストがあります。Gentran:Server をインストールする前にすべてチェックし、準備に役立ててください。

### サーバー チェック リスト

次のチェックリストで、インストールするシステム コンポーネントと、コンピュータ内で Gentran:Server のインストール コンポーネントを配置する場所を決定します。

#### メモ

将来使用できるように、次のワークシートのコピーをとってください。「推奨」の欄には、推奨される設定が記入されています。

番号	確認項目	推奨
1	Gentran:Server をインストールするコンピュータの名前を記入してください。  <b>メモ</b> コンピュータ名は、[マイコンピュータ] の [プロパティ] の [ネットワーク ID] タブに表示されます。	
2	システム データ ストアを配置する場所を記入してください。  <b>推奨事項</b> ¥¥MACHINE¥¥SharepointFolder のように、汎用命名規則 (UNC) に従ったパス名を指定してください。  <b>メモ</b> システム データ ストアは、すべての共有 Gentran:Server データの保管場所になります。シングルワークステーションの場合は、コンピュータ上にシステム データ ストアが常駐します。既定値の "GENSRVNT" フォルダの使用をお勧めします。	¥¥GentranMACHINE1¥¥ GENSRVNT

# Windows の構成

## 概要

### はじめに

---

このセクションの内容を実行するには、作業を行う人物またはシステム管理者が Windows にローカル管理者としてログオンする必要があります。

### このセクションの内容

---

このセクションでは、Gentran:Server で使用するために Windows を構成する (グローバルグループとローカルグループの作成、適切なユーザー権限の追加、およびすべてのユーザーへのシステム データ ストアとデータベースへの適切なアクセスの許可など) 方法について説明します。これらの作業は、指定されている順序どおりに実行する必要があります。

#### 参照

このセクションに記載されている手順の実行方法については、Windows のオンライン ヘルプを参照するか、Microsoft にお問い合わせください。

---

## Windows の構成方法

### プロセス

次の表に、Gentran:Server で使用するために Windows を構成する作業をまとめます。

作業	説明
1	<b>ユーザーの作成と確認：</b> シングル ワークステーション コンピュータで、新しいユーザーを追加し、Gentran:Server ユーザーの既存の Windows ログインを確認します。
2	<b>Windows グローバル グループの作成とユーザーの追加：</b> シングル ワークステーション コンピュータで、すべての Gentran:Server ユーザーを含むグローバル グループを作成し、作成したグループに Gentran:Server ユーザーの Windows ログインを追加します。
3	<b>Windows ローカル グループの作成とグローバル グループへのアクセスの許可：</b> シングル ワークステーション コンピュータで、作成したグローバル グループを含む <b>GENTRANUSERS</b> という名前のローカル グループを作成します。
4	<b>Windows ユーザー権利のローカル グループへの追加：</b> シングル ワークステーション コンピュータで、ローカル グループに Gentran:Server で必要な次のユーザー権利を付与します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ デバイス ドライバのロードとアンロード</li> <li>▶ バッチ ジョブとしてログオン</li> <li>▶ サービスとしてログオン</li> <li>▶ ローカルにログオン</li> <li>▶ ファイルまたはその他のオブジェクトの所有権の取得</li> </ul>

### 次の手順

次に、Gentran:Server をインストールする前に、システム データ ストア フォルダを作成して、作成したユーザー グループで共有できるように設定する必要があります。



## システム データ ストア フォルダを作成して共有する方法

### システム データ ストア フォルダの 作成

ここで、コンピュータにシステム データ ストアが常駐するフォルダを作成し、GENTRANUSERS グループで共有する必要があります。ここでこの処理を行わないと、インストールプログラムによって Gentran:Server フォルダが作成された後で、そのフォルダを共有するために Gentran:Server のインストールプロセスを中断しなければならなくなります。システム データ ストアの UNC パス名は、「2-6」のチェックリストで決定しています。

#### メモ

システム データ ストアを置く場所には、既定の GENSRVNT フォルダを使用することをお勧めします。

### システム データ ストア フォルダの 共有

また、システム データ ストアを置いたフォルダ ("GENSRVNT") を GENTRANUSERS グループで共有できるようにすることも必要です。このグループに、ドライブやフォルダへのフルコントロール権限を与える必要があります。これによって、GENTRANUSERS グループ内のユーザーにファイルを自由に操作 (読み取り、書き込み、作成、削除など) する権限が与えられます。また、ファイルより上のレベル (フォルダなど) の権限を設定できるようになります。

#### メモ

セキュリティ上の理由で、システム データ ストアがおかれているコンピュータのドライブ全体にユーザーがアクセスできないようにする場合があります。この場合はフォルダだけを共有します。

### システム データ ストア フォルダの 作成

システム データ ストアのフォルダを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	シングルワークステーション コンピュータで Windows エクスプローラを開きます。
2	システム データ ストアを配置するドライブを選択します。
3	「GENSRVNT」という名前の新しいフォルダを作成します。

(次のページへ続く)

---

**システム データ  
ストア フォルダの  
共有**

GENSRVNT フォルダを共有する方法については、Windows のマニュアルを参照してください。

---

**次の手順**

これで、使用するデータベースのインストールと構成を行う準備が整いました。

**メモ**

SQL Server と Oracle のデータベースの構成に関する情報は、このマニュアルの最後にある付録に記載されています。データベース管理者 (DBA) とともに該当する付録を読んで、必要に応じて変更を行ってください。

**参照**

詳細については、このマニュアルの、使用するデータベースに対応する付録を参照してください。

---

# Gentran:Server のインストール

## インストール前チェックリスト

### はじめに

インストール前チェックリストのほとんどは、前のセクションで記入がすでにあります。インストールを進める前に、残りの確認項目に対する回答を記入してください。これによって、インストールを開始する前に必要な情報がすべて得られることになります。

### ヒント

このチェックリストを使用する前に、記入しやすいようにチェックリストをコピーし、インストールプロセスの際に再度利用できるようにすることをお勧めします。

### 新規システム チェックリストの 作成

次の表は、Gentran:Server システムを新規作成する場合の、インストール前のチェックリストです。

### メモ

「推奨」の欄には、推奨される設定が記入されています。

番号	確認項目	推奨
1	Gentran:Server をインストールするこのコンピュータのフォルダを記入してください。  <b>参照</b> この情報は、[インストール先]ダイアログボックスで使用します。	C:\GENSRVNT
2	新規 Gentran:Server システムに付ける名前を記入してください。  <b>参照</b> この情報は、[システム名]ダイアログボックスで使用します。	GENSYS1  (次のページへ続く)

( 続き ) 番号	確認項目	推奨
3	<p>システム データ ストアを置く場所を記入してください。</p> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ¥MACHINE¥Sharepoint¥Folder のように、UNC パス名を指定してください。</li> <li>▶ このシングルワークステーションシステムでは、データストアがこのコンピュータに常駐している必要があります。</li> </ul> <p><b>参照</b> この情報は、[データ格納先]ダイアログボックスで使用します。</p>	¥MACHINE¥GENSRVNT
4	<p>システムで使用する ODBC データソースを記入してください。</p> <p><b>推奨事項</b> 整合性を保つために、データソースにはデータベースと同じ名前を付けます。</p> <p><b>参照</b> この情報は、[ODBC データソース名]ダイアログボックスで使用します。</p>	GentranDatabase
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ SQL Server の場合、データベース名を記入してください。</li> <li>▶ Oracle の場合、サービス名か SQL*Net 接続文字列 ( 接続名 ) を記入してください。</li> </ul> <p><b>参照</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ これは、「<a href="#">Gentran:Server のインストール</a>」で作成したデータベースです。</li> <li>▶ この情報は、データベースを構成するときに [ODBC サーバーのセットアップ]ダイアログボックスで使用します。</li> </ul>	GentranDatabase  ( 次のページへ続く )

( 続き ) 番号	確認項目	推奨
6	<p>インストールプログラムでデータベースへのアクセスに使用するデータベース ユーザー ログオンを記入してください。</p> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ このログオンは、データベースに対する管理権限を持っていることが必要です。</li> <li>▶ Oracle システムにインストールする場合は、データベース管理者 (DBA) 権限を持っていることが必要です。</li> <li>▶ これは、データベース作成者以外のユーザーがテーブルにアクセスできるように、適切なアクセス権を設定してテーブルをビルドする場合に必要です。</li> </ul> <p><b>参照</b> この情報は、[ データベース ログオン ] ダイアログ ボックスで使用します。</p>	
7	<p>このコンピュータにインストールする Gentran:Server コンポーネントを記入してください。</p> <p><b>参照</b> この情報は、[ コンポーネントの選択 ] ダイアログ ボックスで使用します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ クライアント アクセス コンポーネント</li> <li>▶ インテグレーション コンポーネント</li> </ul> <p>( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 番号	確認項目	推奨
8	<p>Gentran:Server エグゼクティブ サービスでプライマリ Gentran システム コントローラへのログオンに使用する Windows のユーザー ログオンを記入してください。</p> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ このログオンには、ローカルコンピュータで高度な権限である "バッチ ジョブとしてログオン" が割り当てられている必要があります。</li> <li>▶ 非ドメインの形式は「¥User」です (かっこを入力しないでください)。</li> </ul> <p><b>参照</b> この情報は、[Windows ログオン] ダイアログ ボックスで使します。</p>	<p><b>推奨事項</b> 現在 Windows へのログオンに使用している、システム管理者のログインを使用してください。</p>
9	<p>Gentran:Server エグゼクティブ サービスでデータベースへのアクセスに使用するデータベース ユーザー ログオンを記入してください。</p> <p><b>メモ</b> このデータベース ログオンは、Gentran:Server データベース テーブルへのアクセスが許可されている必要があります。</p> <p><b>参照</b> この情報は、[データベース ログオン] ダイアログ ボックスで使します。</p>	<p><b>推奨事項</b> 現在 Windows へのログオンに使用している、システム管理者のログインを使用してください。</p> <p>( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 番号	確認項目	推奨
10	<p>既定の Gentran:Server システム管理者に設定するユーザーを記入してください。</p> <p>これによって、Gentran:Server への最初のアクセス、およびサービスの起動と停止が可能になります。</p> <p><b>メモ</b> このユーザーは、データベースにも設定されていることが必要です。この作業は、使用するデータベース管理製品に対応するこのマニュアルの付録で行っています。</p> <p><b>参照</b> この情報は、[Gentran:Server システム管理者] ダイアログ ボックスで使用します。</p>	<p><b>推奨事項</b> 現在 Windows へのログオンに使用している、システム管理者のログインを使用してください。</p> <p>( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 番号	確認項目	推奨
11	<p>データベース テーブルへのアクセスを与えるデータベース ユーザー名またはユーザー グループ名を記入してください。</p> <p><b>メモ</b> このユーザー / グループは有効な ID であることが必要です。有効でない場合、インストールを完了することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ SQL Server の場合、ID は有効な Windows のユーザーまたはグループであることが必要です。</li> <li>▶ Oracle の場合、ID は有効なユーザー ID であることが必要です。Oracle では Windows グループは認識されません。</li> </ul> <p>データベース テーブルのビルド中に Gentran:Server のインストールが失敗した場合は、インストールを再度開始し、このエントリはブランクのままにしておいてください。DBA ID を使用して、インストール後にほかのユーザーをセットアップすることができます。</p> <p><b>推奨事項</b> インストールの際にこの作業を実行しておく、インストール後にデータベース管理システムを使用して権限を与える必要がありません。</p> <p><b>参照</b> この情報は、[アプリケーション データベース アクセス] ダイアログ ボックスで使用します。</p>	GENTRANUSERS
12	<p>Gentran:Server アイコンのインストール先となるプログラム フォルダに付ける名前を記入してください。</p> <p><b>参照</b> この情報は、[プログラム フォルダ名] ダイアログ ボックスで使用します。</p>	Gentran:Server

( 次のページへ続く )



**Gentran Standards  
チェックリスト**

インテグレーション コンポーネントをインストールする場合は、Gentran:Server のインストール後に Gentran Standards をインストールする必要があります。次に示すのは、Gentran Standards のインストール前のチェックリストです。「推奨」の欄には、推奨される設定が記入されます。

番号	確認項目	推奨
1	<p>CD から Gentran Standards へアクセス、Standards をコンピュータのハードドライブにインストール、または、既存のデータベースに ODBC データ ソースをマッピングするかを記入してください。</p> <p><b>メモ</b> Gentran Standards ファイルをインストールするには、約 270MB の空きディスク領域が必要です。</p> <p><b>参照</b> この情報は、[Install Standards] ダイアログ ボックスで使用します。</p>	
2	<p>standards ファイル (STANDARD.MDB など) を配置する場所を記入してください。</p> <p><b>参照</b> この情報は、[Standards Destination] ダイアログ ボックスで使用します。</p>	<p>c:\¥GENSRVNT¥standards</p> <p>または</p> <p>Standards CD からアクセス</p>
3	<p>Gentran Standards データベースで使用する ODBC データ ソースに付ける名前を記入してください。</p> <p><b>メモ</b> この ODBC データソースは新しく作成されるもので、Gentran:Server データソースと同じ名前をつけることはできません。たとえば、Gentran:Server データソースの名前が「GentranDatabase」の場合、この名前を Gentran Standard のインストールに使用することはできません。</p> <p><b>参照</b> この情報は、[スタンダード データベース] ダイアログ ボックスで使用します。</p>	Gentran Standards

## Gentran:Server セットアッププログラムの使用

### はじめに

セットアッププログラム (SETUP.EXE) では、Gentran:Server をインストールすることができます。

#### 注意

セットアッププログラムを実行する前に、すべての Windows のプログラムを終了することをお勧めします。

### ナビゲーション

次の表に、セットアッププログラムのナビゲーションに関する一般的な情報をまとめます。

実行する操作	クリックするボタン
次のダイアログ ボックスへ進む	次へ
前のダイアログ ボックスへ戻る	戻る
セットアップの終了	キャンセル <b>画面に表示されるメッセージ</b> セットアップを中止するかどうかたずねる画面が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>中止する場合は、[中止] をクリックします。</li></ul> <b>注意</b> セットアップを中止すると、インストールは完了しません。 <ul style="list-style-type: none"><li>中止しない場合は、[継続] をクリックします。</li></ul>

# シングルワークステーションシステムのインストール方法

## 手順

### 要件



シングルワークステーションシステムのインストールを完了するには、Windows にローカル管理者としてログオンする必要があります。


### メモ

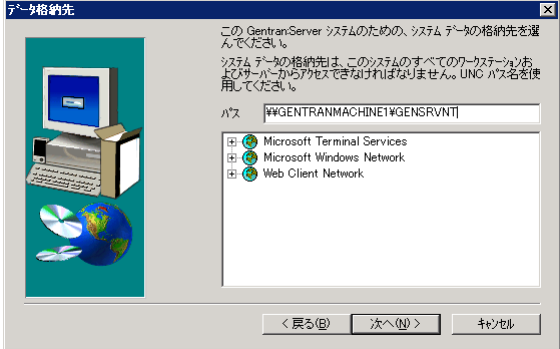

Gentran:Server をアンインストールする必要がある場合は、『管理ガイド』で Gentran:Server のインストール CD セットアッププログラムの [既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする] オプションの使用方法を参照してください。

シングルワークステーションシステムに Gentran:Server をインストールするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	インストール元のドライブに Gentran:Server CD を挿入します。  <b>推奨事項</b> セットアッププログラムを実行する前に、ほかのすべての Windows プログラムを終了してください。
2	コンピュータで CD の自動実行が無効になっている場合は、[スタート]メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択して、次のステップに進みます。自動実行が有効の場合はステップ 4 に進みます。
3	次を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <i>drive:¥</i> (<i>drive</i> は CD-ROM ドライブに割り当てられている文字) に続けて「<i>setup.exe</i>」と入力します。</li> <li>▶ [OK] をクリックします。</li> </ul> <b>システムからの応答</b> セットアッププログラムによって、インストールを手順を追ってガイドするウィザードが準備されます。この準備には数分かかることがあります。その後、[ようこそ] ダイアログボックスが表示されます。
4	[次へ] をクリックし、セットアップを進めます。  <b>システムからの応答</b> README.HTM ファイルを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。  (次のページへ続く)

( 続き ) ステップ	操作
5	<p>[ はい ] をクリックすると、README ファイルが表示されます。読み終わったらファイルを閉じます。</p> <p><b>システムからの応答</b> セットアッププログラムによって、インストール済みのコンポーネントが検索されます。現在コンピュータにインストールされている Gentran:Server のコンポーネントはないため、[ インストールの選択 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
6	<p>[ 新規の Gentran:Server システムを作成する ] オプションを選択し、[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> 新規インストールチェックリストが完成していない場合には、完成を促すメッセージが表示されます。</p>
7	<p>[ はい ] をクリックして、インストールを続けます。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ インストール先 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
8	<p>既定の GENSRVNT フォルダに Gentran:Server をインストールするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 既定のフォルダにインストールする場合は、[ 次へ ] をクリックします。</li> <li>▶ 別のフォルダにインストールする場合は、[ 参照 ] をクリックしてフォルダを選択し、[ OK ] をクリックして [ 参照 ] ダイアログ ボックスを閉じます。[ 次へ ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>参照</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ この情報は、2 - 11 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 1 で決定しています。</li> <li>▶ Windows の場合、既定のインストール先フォルダは C:\GENSRVNT です。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>GENSRVNT フォルダは既に作成されていますが、インストール先フォルダがない場合は、セットアップによってフォルダが作成されます。[ システム名 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>


( 続き ) ステップ	操作
9	<p>新規システム名を入力し、[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>参照</b> システム名は、2-11 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 2 で決定しています。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ データ格納先 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
10	<p>リストの項目をクリックして ([ パス ] ボックスに入力するよりも正確です) このシステムのデータ ストア の場所を選択し、[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>推奨事項</b> データ ストア の場所には GENSERVNT フォルダ を使用します。</p> <p><b>参照</b> データ ストア の場所は、2-12 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 3 で決定しています。</p> <p><b>システムからの応答</b> 指定したドライブまたはフォルダが共有されていることが確認され、[ ODBC データ ソース名 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 



( 次のページへ続く )

( 続き ) ステップ	操作
11	<p>このシステムの Gentran:Server で使用する ODBC データ ソースの名前を入力し、[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>ヒント</b> ODBC データ ソースでは大文字と小文字が区別されるため、データ ソースの名前を正しく入力したことを必ず確認してください。</p> <p><b>参照</b> ODBC データ ソース名は、2 - 12 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 4 で決定しています。</p> <p><b>システムからの応答</b> 選択した ODBC DSN が検索されます。</p>
12	<p>ODBC DSN が検出されたかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 検出された場合は、ODBC データ ソース構成の変更を促すメッセージが表示されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> [ はい ] をクリックすると、[ ODBC データ ソース アドミニストレータ ] ダイアログ ボックスが表示されます。ステップ 13 に進んで、データ ソースを変更します。 [ いいえ ] をクリックした場合は、ステップ 15 に進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 検出されなかった場合は、ODBC データ ソースの新規作成を促すメッセージが表示されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> 新しい ODBC DSN を作成しない場合は、[ いいえ ] をクリックして [ ODBC データ ソースの選択 ] ダイアログ ボックスに戻り、別のデータ ソースを選択します (ステップ 11)。新しい ODBC DSN を作成する場合は、[ はい ] をクリックすると、[ ODBC データ ソース アドミニストレータ ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
13	<p>[システム DSN] タブを選択し、[追加] をクリックします。コントローラの場合、サービスでデータソースを使用できるように、<i>system</i> DSN を使う必要があります。</p> <p><b>推奨事項</b> システム DSN の使用を推奨します。システム DSN を使用することで、このコンピュータ上のすべてのユーザーに加え、Gentran:Server エグゼクティブ サービスでもこの DSN を使用できるようになります。</p> <p><b>システムからの応答</b> [データソースの新規作成] ウィザードが表示されます。</p>
14	<p>使用するデータベースの ODBC ドライバをドライバリストから選択して [完了] をクリックし、ステップ 15 に進みます。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ODBC データソース サーバー セットアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。たとえば、SQL Server を使用している場合は、[ODBC SQL Server] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> 使用するデータベース管理プログラムとそのバージョンによって、このダイアログ ボックスは異なることがあります。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

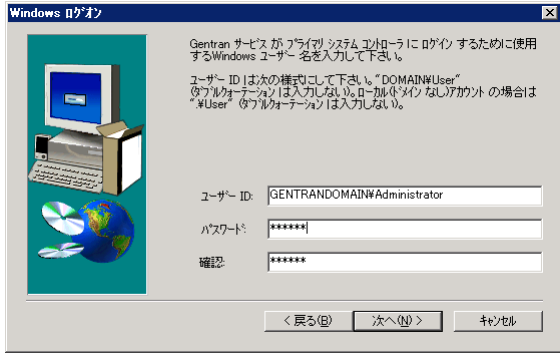



( 続き ) ステップ	操作
15	<p>SQL Server を使って ODBC DSN を作成するには、次の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ DSN の構成の方法については、SQL Server のマニュアルを参照してください。</li> <li>◆ SQL Server Setup を保存して、ステップ 17 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ SQL Server 以外のデータベースを使用する場合も、データベースを配置するコンピュータ名を選択し、データベース名を入力する必要があります。</li> <li>◆ ダイアログ ボックスに [Use ANSI Quoted Identifiers] オプションが表示されている場合は、このオプションをオンにする必要があります。オフの場合、データベースは Gentran:Server と連動しません。</li> <li>◆ 既存の Gentran:Server データベース テーブルが検出された場合は、既存のテーブルを置き換えるかどうかを確認するメッセージが表示されます。インストールを続けるには、[ はい ] をクリックします。クリックする前に、既存のテーブルを置き換えてもよいかどうかを慎重に判断してください。これらのテーブルにはデータが含まれている可能性があります。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [ データベース ログオン ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
<b>使用環境</b>	<b>次のステップ</b>
SQL Server ODBC DSN、または指定した DSN が見つからない場合。	ステップ 17
Oracle ドライバを使用するように構成された DSN が見つかった場合。	ステップ 16
Microsoft for Oracle ドライバを使用するように構成された DSN が見つかった場合。	ステップ 16  ( 次のページへ続く )

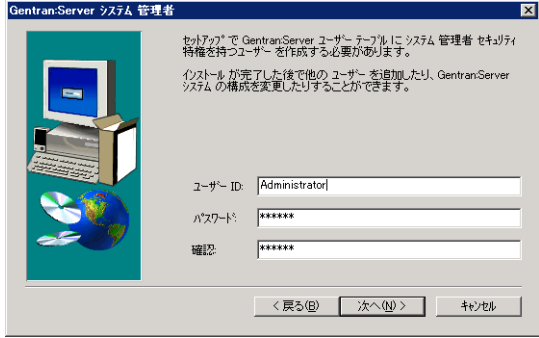
( 続き ) ステップ	操作
16	<p>Oracle データベースを使用しているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle データベースを使用し、[ODBC データソース]に入力した DSN が Oracle ドライバを使用したものである場合は、[Microsoft ODBC データ ソース名]ダイアログ ボックスが表示されます。</li> </ul>  <p>Microsoft for Oracle ODBC ドライバを使用するシステム DSN を入力し、[次へ]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle データベースを使用し、[ODBC データソース]に入力した DSN が Microsoft ドライバを使用したものである場合は、[Oracle ODBC データ ソース名]ダイアログ ボックスが表示されます。</li> </ul>  <p>Oracle ODBC ドライバを使用するシステム DSN を入力し、[次へ]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle データベースを使用していない場合は、次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [データベース ログオン]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
17	<p>次の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ユーザー ID] ボックスにデータベース管理者のログオンを入力します。</li> <li>▶ [パスワード] と [確認] のボックスに適切なパスワードを入力して、[次へ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>参照</b> これは、セットアップでデータベース テーブルのビルドに使用される管理用データベース ログオンです。このデータベース ログオンは、2-13 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 6 で決定しています。</p> <p><b>メモ</b> SQL Server のユーザー ID の場合、Gentran:Server データベースに対して管理者権限をもつ SQL 管理者ログインを使用することが必要です。このようなログインを使用しないと、データベース テーブルを使用できるユーザーはテーブルの作成者のみになります。</p> <p><b>システムからの応答</b> [コンポーネントの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <div data-bbox="619 1048 1098 1377" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>コンポーネントの選択</p> <p>インストールしたい構成を選択して下さい。 [次へ] をクリックすると [インストール] を実行します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> クラウド アクセス 構成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> インフラウェア 構成</p> <p>&lt; 戻る(B)   次へ(N) &gt;   詳細</p> </div> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>


( 続き ) ステップ	操作
18	<p>インストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにして、[次へ]をクリックします。</p> <p><b>参照</b> この情報は、2-13 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 7 で決定しています。</p> <p><b>メモ</b> すべてのコンポーネントをインストールすることをお勧めします。プロセス コントローラ コンポーネントは、自動的にプライマリ Gentran システム コントローラにインストールされます。</p> <p><b>システムからの応答</b> Gentran:Server 5.0 よりも前のバージョンからアップグレードする場合、HIPAA 対応にするかどうかを尋ねられます。これ以外の場合は、ステップ 15 に進みます。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server for Windows では、オプションとして Health Insurance Portability and Accountability Act (HIPAA, Public Law 104-191) への対応をサポートしています。これはアメリカ合衆国の公法で、ヘルスケアに関するトランザクションを行うすべての団体に対し、全国的な実施ガイドラインに沿うことを義務化するものです。このガイドラインは、患者の記録に関するプライバシーやセキュリティを向上し、ヘルスケア産業全体における電子コミュニケーションを簡易化および標準化し、管理コストを削減することを目標としています。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server における HIPAA の使用の詳細については、『HIPAA and NCPDP Compliance Guide』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
19	<p>HIPAA 対応にするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ HIPAA 対応にする場合は、[ はい ] をクリックすると、適切なコンポーネントがインストールされます。次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— [ はい ] をクリックして Gentran:Server をインストールすると、このオプションを取り消すには Gentran:Server を削除しなければなりません。</li> <li>— HIPAA 対応にすることを選択した場合は、Gentran:Server システムへのアクセスに使用するユーザー ID とパスワードを記録して、安全な場所に保管してください。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ HIPAA 対応にしない場合は、[ いいえ ] をクリックして次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [Windows ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>


( 続き ) ステップ	操作
20	<p>次の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ユーザー ID] ボックスに、ネットワークへの必要なアクセス権が設定されている Windows ユーザー ID を入力します。書式は、ドメイン アカウントでは "DOMAIN¥User"、非ドメイン アカウントでは "¥User" です。</li> <li>▶ このユーザー ID の Windows パスワードを [パスワード] ボックスに入力します。確認のために、[確認] ボックスにパスワードを再度入力します。</li> <li>▶ [次へ] をクリックし、次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>参照</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Gentran:Server エグゼクティブ サービスでネットワーク リソースへアクセスするために使用する、Windows の有効な管理ユーザー ID とパスワードを入力する必要があります。この Windows ユーザー アカウントは、Gentran:Server エグゼクティブ サービスの起動や、自動処理に使用されます。</li> <li>▶ この Windows ユーザー ID には、ローカル コンピュータで高度な権利である " バッチ ジョブとしてログオン " が割り当てられている必要があります。</li> <li>▶ 使用するログオンは、2 - 14 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 8 で決定しています。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>[データベース ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
21	<p>次の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ユーザー ID] ボックスに、データベースへの必要なアクセス権が設定されているデータベース ユーザー ID を入力します。</li> <li>▶ このユーザー ID のパスワードを [パスワード] ボックスに入力します。確認のために、[確認] ボックスにもパスワードを再入力します。</li> <li>▶ [次へ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>参照</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ このログオンは、2 - 14 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 9 で決定しています。</li> <li>▶ このログオンによって、Gentran:Server エグゼクティブ サービスがデータベース テーブルの情報にアクセスして、操作できるようになります。Gentran:Server からデータベース テーブルへのアクセスには、常にこのログオンが使用されます。</li> <li>▶ Gentran:Server データベース テーブルへのアクセスが既に設定されている、有効なデータベース管理用ログオンを入力してください。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>[Gentran:Server システム管理者] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

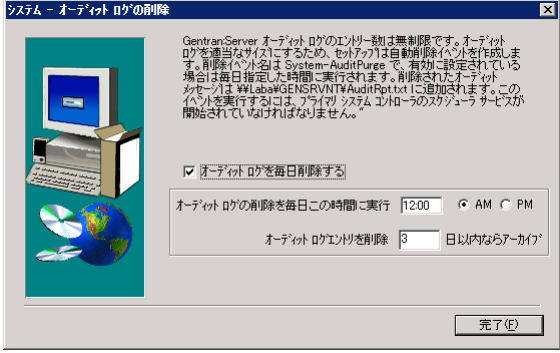


( 続き ) ステップ	操作
22	<p>次のボックスで設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ユーザー ID] ボックスに、Gentran:Server の管理ユーザー ID を入力します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> このユーザーは、有効な Windows とデータベースへのログオンをもつことが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ このユーザー ID のパスワードを [パスワード] ボックスに入力します。確認のために、[確認] ボックスにもパスワードを再入力します。</li> <li>▶ [次へ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>参照</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Gentran:Server システム管理者に使用するユーザー ログオンは、2 - 15 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 10 で決定しています。</li> <li>▶ セットアッププログラムによって、この Gentran:Server 管理ユーザーが作成されます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [アプリケーション データベース アクセス] ダイアログ ボックスが表示され、データベース管理プログラムで既に設定されているユーザーまたはユーザー グループに、Gentran:Server データベース テーブルへのアクセス権を与えることができます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) ステップ	操作
23	<p>作成したユーザーのグループに Gentran:Server データベース テーブルへのアクセスを許可するには、「GENTRANUSERS」と入力して [次へ] をクリックします。</p> <p><b>参照</b> このグループは、2 - 16 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 11 で決定しています。</p> <p><b>メモ</b> このユーザー / グループは有効な ID であることが必要です。有効でない場合、インストールを完了することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ SQL Server の場合、ID は有効な Windows のユーザーまたはグループであることが必要です。</li> <li>▶ Oracle の場合、ID は有効なユーザー ID であることが必要です。Oracle では Windows グループは認識されません。</li> </ul> <p>データベース テーブルのビルド中に Gentran:Server のインストールが失敗した場合は、インストールを再度開始し、このエントリはブランクのままにしておいてください。DBA ID を使用して、インストール後にほかのユーザーをセットアップすることができます。</p> <p><b>システムからの応答</b> [プログラム フォルダ名] ダイアログ ボックスが表示され、クライアント / インテグレーション コンポーネントをプログラム アイコンとしてインストールするプログラム グループを選択することができます。</p> 
24	<p>既定のプログラム フォルダ名である Gentran Server をそのまま使用して、[次へ] をクリックします。</p> <p><b>メモ</b> この情報は、2 - 16 ページ、「新規システム作成チェックリスト」のステップ 12 で決定しています。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
25	<p>インテグレーション コンポーネントをインストールするよう選択したかどうかによって、次を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インストールする場合は、新しいマップとフィールドに使用する既定のデータ形式を尋ねられます。自由な形式を使用する場合は、[はい]を、ASCII 文字に対応する形式を使用する場合は、[いいえ]をクリックします。ステップ 15 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 新しいマップやフィールドを作成すると、文字列フィールドに既定の形式が適用されます。この形式は、文字の確認の基礎となります。選択した規定の形式が ASCII 文字のみに対応する場合 (ほとんどのアメリカのユーザー) は、自由な形式は必要ありません。既定の形式に ASCII 文字以外の文字を使用する言語が含まれる場合は、自由な形式 (0x01 - 0x0FF) を選択します。</li> <li>— この選択は永久的なもので、いったん既定の設定を選択すると変更することはできません。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インストールしない場合は、次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>選択した Gentran:Server コンポーネントをインストールする準備が整ったことを知らせ、インストールを続けるかどうかを確認するメッセージダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
26	<p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [はい] をクリックすると、インストールが実行されます。ステップ 29 に進みます。</li> <li>▶ [いいえ] をクリックすると、プログラム フォルダが不明の場合は、[アプリケーション データベース アクセス] ダイアログ ボックスに戻り (ステップ 22)、プログラム フォルダが指定されている場合は、[プログラム フォルダの選択] ダイアログ ボックスに戻ります (ステップ 23)。</li> </ul> </p> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>セットアップでは、Gentran:Server データベース テーブルのビルド、ファイルのコピー、システム データ ストア フォルダの作成、既定データの挿入、選択したコンポーネントのインストール、該当するレジストリ エントリの追加、サービスのインストール、プログラム グループおよびプログラム アイコンのビルド (クライアント アクセス コンポーネントまたはインテグレーション コンポーネントが選択された場合) が実行されます。</p> <p>[システム - オーディット ログの削除] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
27	<p>既定値をそのまま使用して、[完了] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>Gentran:Server サービスをすぐに開始するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
28	<p>Gentran:Server サービスをすぐに開始するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 開始する場合は、[はい]をクリックします。</li> <li>▶ 開始しない場合は、[いいえ]をクリックします。後から手作業でサービスを再開する必要があります。</li> </ul> <p><b>参照</b> Gentran サービスを開始する方法の詳細については、『管理ガイド』を参照してください。</p> <p><b>システムからの応答</b> 以前に Gentran:Server のインストールとアンインストールを行った場合は、古いデータベース テーブルの削除および置換を促すメッセージが表示されます。ORACLE データベースを使用している場合は、Gentran:Server のインストール前に古いテーブルを手動で削除する必要があることを知らせるメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エラーが発生しなければ、ステップ 28 に進みます。</li> <li>▶ エラーが発生した場合は、エラーが報告されます。Install Shield のエラー メッセージの一覧は、「<a href="#">InstallShield のエラー メッセージ</a>」を参照してください。</li> </ul> <p><b>メモ</b> ステップ 20 で入力した Windows ユーザー ID に、ローカル コンピュータで " バッチ ジョブとしてログオンする " 権限が割り当てられていない場合は、指定したバックグラウンド サービスの実行のために、この権利を設定する必要のあることが通知されます。[OK] をクリックしてこれらのメッセージを確認し、セットアップの完了後、ユーザー ID に権利を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 次に、ロックされている共有 DLL がないかが確認されます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
29	<p>ロックされている共有 DLL があるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ある場合は、コンピュータをすぐに再起動するか、後で再起動するかを確認するメッセージが表示されます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>a [いいえ、後でコンピュータを再起動します] オプションを選択して [OK] をクリックすると、セットアッププログラムが終了します。</li> <li>b. [はい、今すぐコンピュータを再起動します] オプションを選択して [OK] をクリックすると、コンピュータが再起動します。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>注意</b> コンピュータを再起動する前に、実行中のほかのアプリケーションでの作業が保存されていることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ない場合は、次のステップに進みます。</li> </ul>
30	<p>インテグレーション コンポーネントをインストールしたかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インストールした場合は、Gentran Standards のインストールを求めるメッセージが表示されます。 [OK] をクリックしてこのメッセージを確認し、次のページに進みます。</li> <li>▶ インストールしなかった場合は、次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> E メールによる通知を設定する必要がある場合は、使用する MAPI プロファイルの構成が必要であるというメッセージが表示されます。 [OK] をクリックします。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、メッセージ ボックスに記載されている Gentran:Server のマニュアルを参照してください。</p>
31	<p>[OK] をクリックして、セットアップを終了します。これでセットアッププログラムが完了し、シングルワークステーションシステムが作成されました。</p> <p><b>メモ</b> マニュアルを表示するには、Windows エクスプローラを使用して Gentran:Server Manual CD のオンライン マニュアルを開いてください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
32	<p>これで、オプション パックから必要なオプション コンポーネントをインストールする準備が整いました。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server のオプション コンポーネントのインストール方法については、『オプション パック インストール カード』を参照してください。</p>

---

## Gentran Standards のインストール方法

---

### はじめに

#### メモ

Gentran Standards をインストールする必要があるのは、Gentran:Server のインストール時にインテグレーション コンポーネントをインストールした場合にのみです。

#### 参照

Gentran Standards のインストールについては、該当する『Gentran:Server Standards Card』を参照してください。

---

# Gentran:Server のアップグレード

## Gentran:Server インストールのアップグレード方法

### はじめに

Gentran:Server ソフトウェアのアップグレードを受け取った場合は、Gentran:Server コンピュータで [既存のシステムを更新する] オプションを使用します。

#### メモ

- ▶ シングルワークステーションシステムのインストールを完了するには、ローカル管理者として Windows にログオンしている必要があります。
- ▶ Gentran:Server をアンインストールする必要がある場合は、『管理ガイド』で Gentran:Server のインストール CD セットアッププログラムの [既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする] オプションの使用方法を参照してください。

### Gentran:Server for RosettaNet の前提条件

#### 注意

Gentran:Server for RosettaNet は、Microsoft インターネット インフォメーションサービス (IIS) の HTTP 関連のコミュニケーションに依存しています。IIS を利用するには、Gentran:Server for Windows のダイナミック ライブラリが開いていることが必要なため、インストール時に IIS が実行されていると Gentran:Server 5.0 リリースのインストールは失敗します。このため、Gentran:Server をインストールする前に必ず IIS サービスを停止してください。IIS を停止するには、[World Wide Web Publishing Service] と [IIS Admin Service] を [サービス] ダイアログボックスで停止します。各サービスをリストから選択し、[停止] ボタンをクリックします。

[スタート] メニューから、[設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] を選択し、[インターネット サービス マネージャ] を選択して、[インターネット サービス] ダイアログボックスを開くことができます。

#### メモ

Gentran:Server for RosettaNet を使用していて、Gentran:Server for Windows 5.0 にアップグレードする場合は、Gentran:Server for Windows 5.0 と Gentran:Server for RosettaNet 5.0 のインストール後に行わなければならない作業があります。これらのインストール後の作業のために、時間をあけておいてください。

#### 参照

これらのインストール後の作業については、『Gentran:Server for RosettaNet Installation Card』の「How to Upgrade Gentran:Server for RosettaNet」を参照してください。

(次のページへ続く)



**失敗したインストールのトラブルシューティング**

セットアップでは、実行されたすべてのスクリプト コマンドのログが保持されています。自動回復によって、インストールプロセスのどの時点でエラーが発生したかが判断され、その時点からインストールが再開されます。これによって、前に実行されたコマンドが取り消されることはありません。次に示すのは、自動回復によって復旧されたエラーの例です。

- ▶ クラッシュしたか、誤って電源から抜かれたデータベース サーバー
- ▶ ネットワーク エラー
- ▶ 停電

**アップグレード前のデータベースのバックアップ**

Gentran:Server をアップグレードする前に、データベース、データ ストア、および Windows レジストリなど、Gentran:Server システムすべてを同期バックアップすることを推奨します。バックアップ終了後に、整合性を確認してください。

**テスト コンピュータのアップグレード**

本番環境で Gentran:Server システムをアップグレードする前に、まずテスト コンピュータアップグレードを行い、その後本番システムに移行することを推奨します。


**手順**

Gentran:Server をアップグレードするには、次の手順に従います。

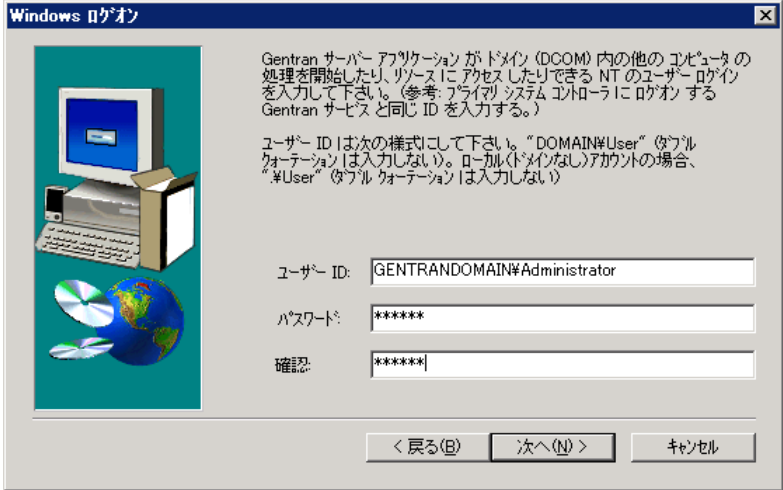
ステップ	操作
1	<p>アップグレード ファイルの日付が既存のファイルの日付以前の場合、ファイルはコピーされません。アップグレード ファイルの日付が既存のファイルの日付よりも新しい場合は、新しいファイルで上書きされます。</p> <p>したがって、カスタマ サポートから提供されたホットフィックスを Gentran:Server システムに適用した場合は、ホットフィックスの更新日とアップグレードするバージョンのリリース日を確認してください。ホットフィックスのバージョンの日付がリリース日より新しい場合、アップグレードの前に手作業でホットフィックスを削除する必要があります。</p> <p style="text-align: right; color: green;">(次のページへ続く)</p>


( 続き ) ステップ	操作
2	セットアッププログラムを実行するドライブに Gentran:Server CD-ROM を挿入します。  <b>注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ セットアッププログラムは、Gentran:Server をアップグレードするコンピュータで実行してください。</li> <li>▶ Gentran:Server for RosettaNet がインストールされている場合は、「<a href="#">Gentran:Server for RosettaNet の前提条件</a>」のセクションにある前提条件の注意の部分を参照してください。</li> </ul> <b>推奨事項</b> セットアッププログラムを実行する前に、ほかのすべての Windows プログラムを終了してください。
3	コンピュータで CD の自動実行が無効になっている場合は、[ スタート ]メニューから [ ファイル名を指定して実行 ] を選択して、次のステップに進みます。自動実行が有効の場合はステップ 5 に進みます。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <i>drive:¥</i> (<i>drive</i> は CD-ROM ドライブに割り当てられている文字) に続けて「<i>setup.exe</i>」と入力します。</li> <li>▶ [OK] をクリックします。</li> </ul> <b>システムからの応答</b> セットアップによって、インストールプログラムを手順を追ってガイドするウィザードが準備されます。これには数秒かかる場合があります。その後、[ ようこそ ] ダイアログボックスが表示されます。
5	[ 次へ ] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> README.HTM ファイルを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
6	ファイルを表示するには [ はい ] をクリックします。読み終わったらドキュメントを閉じます。  <b>システムからの応答</b> セットアッププログラムがインストールプロセスを続行します。  <div style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</div>

( 続き ) ステップ	操作
7	<p>現在 Gentran:Server エグゼクティブ、Gentran:Server メールボックス、Gentran:Server コミュニケーションズ サービス、または Gentran オーディット通知サービスを実行しているかどうかによって、次を実行します。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server for RosettaNet がインストールされている場合は、World Wide Web Publishing サービス、SMTP (Simple Mail Transport Protocol) サービス、FTP Publishing サービス、または IIS Admin サービスの停止を促すメッセージが表示されることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 実行している場合は、インストールを続行できるようにサービスを停止するように求められます。[はい]をクリックして、各サービスを停止し、次のステップに進みます。</li> <li>▶ 実行していない場合は、ステップ 8 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> 必要なサービスを停止しないことを選択すると、インストールを終了するという内容のメッセージが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
8	<p>[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b>            セットアッププログラムによって、インストール済みのコンポーネントが検索されます。このコンピュータには現在 Gentran:Server コンポーネントがインストールされているため、古いバージョンの Gentran:Server が検出されたことが示され、新しいバージョンにアップグレードするかを確認するメッセージか、次のダイアログ ボックスが表示されます。</p> <div data-bbox="619 698 1390 1227" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>インストール の選択</b> <span style="float: right;">✕</span></p> <p>Gentran:Server の インストール 方法を選択して下さい ...</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><input checked="" type="radio"/> 既存のGentran:Serverのインストールを使用できないようにする</p> <p><input type="radio"/> 既存のインストールを更新する</p> <p><input type="radio"/> 既存の構成に追加または構成を削除する</p> </div> </div> <p style="text-align: right;"> <input style="margin-right: 5px;" type="button" value=" &lt; 戻る(B) "/> <input style="margin-right: 5px;" type="button" value=" 次へ(N) &gt; "/> <input style="margin-right: 5px;" type="button" value=" キャンセル "/> </p> </div> <p>次のステップに進みます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
9	<p>コンピュータに Gentran:Server の以前のバージョンが検出されたというメッセージが表示されたかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示された場合は、[ はい ] をクリックします。</li> <li>▶ 表示されなかった場合 ([ インストールの選択 ] ダイアログボックスが表示された場合) は、[ 既存のシステムを更新する ] を選択して、[ 次へ ] をクリックし、セットアップを続行します。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> 現在のインストールをアップグレードする準備ができたことを知らせるメッセージダイアログボックスが表示され、次の作業が完了しているかを確認するメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インストール手順の確認</li> <li>▶ Gentran:Server ファイルのバックアップの正常終了</li> <li>▶ Gentran:Server データベースのバックアップの正常終了</li> </ul> <p><b>推奨事項</b> Windows レジストリを含む完全なシステムのバックアップを行い、結果を確認することをお勧めします。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
10	<p>続行するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 続行する場合は、[はい]をクリックして、インストールを続行します(ステップ 17に進みます)。</li> <li>▶ 続行しない場合は、[いいえ]をクリックして、[インストールの選択]ダイアログボックスに戻り、別のインストールオプションを選択します(ステップ 8)。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>指定したシステムが検索されます。[Windows ログオン]ダイアログボックスが表示されたら、Gentran:Server エグゼクティブ サービスでネットワーク リソースへのアクセスに使用する有効な Windows 管理者ユーザー ID およびパスワードを入力します。この Windows ユーザー アカウントは、Gentran:Server エグゼクティブ サービスの起動や、自動処理に使用されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ユーザー ID] ボックスに、ネットワークへの必要なアクセス権が設定されている Windows ユーザー ID を入力します。書式は、ドメインアカウントでは "DOMAIN¥User"、非ドメインアカウントでは "¥User" です。</li> <li>▶ ユーザー ID の Windows パスワードを [パスワード] ボックスに入力します。確認のために、[確認] ボックスにパスワードを再度入力します。</li> <li>▶ [次へ] をクリックし、次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> プライマリ コントローラの場合は、データベース テーブルをアップグレードする必要があるため、[データベース ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> これは、セットアップでデータベース テーブルのビルドに使用する管理用データベース ログインです。</p> <div data-bbox="624 958 1409 1451" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="margin: 0;"><b>データベース ログオン</b></p> <p style="font-size: small; margin: 5px 0;">セットアップは、アップグレードの間にデータベースを構成します。セットアップで必要な変更ができるように、データベース管理者のログイン内容を入力して下さい。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-top: 20px;"> <p>ユーザー ID: <input type="text" value="Admin"/></p> <p>パスワード: <input type="password" value="*****"/></p> <p>確認: <input type="password" value="*****"/></p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <input type="button" value="戻る(B)"/> <input type="button" value="次へ(N) &gt;"/> <input type="button" value="キャンセル"/> </div> </div> <p><b>メモ</b> この Gentran:Server システムで Oracle がインストールされている場合は、スキーマが変更されないように、テーブルのスキーマ所有者を使用する必要があります。 ステップ 12 に進みます。</p> <p style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [データベース ログオン]ダイアログ ボックスの[ユーザー ID]ボックスに、データベース管理者のログオンを入力します。</li> <li>▶ [パスワード]と[確認]のボックスに適切なパスワードを入力し、[次へ]をクリックしてステップ 13 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> SQL Server のユーザー ID の場合、Gentran:Server データベースに対して管理者権限をもつ SQL 管理者ログインを使用することが必要です。このようなログインを使用しないと、データベース テーブルを使用できるユーザーはテーブルの作成者のみに なります。</p> <p><b>システムからの応答</b> Gentran:Server の以前のバージョンからアップグレードする場合、HIPAA 対応にするかどうかを尋ねられます ( 次のステップに進みます )。アップグレードではない場合は、ステップ 14 に進みます。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server for Windows では、オプションとして Health Insurance Portability and Accountability Act (HIPAA, Public Law 104-191) への対応をサポートしています。この法律は、ヘルスケアに関するトランザクションを行うすべての団体に対し、全国的な実施ガイドラインに沿うことを義務化するものです。このガイドラインは、患者の記録に関するプライバシーやセキュリティを向上し、ヘルスケア産業全体における電子コミュニケーションを簡易化および標準化し、管理コストを削減することを目標としています。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server における HIPAA の使用の詳細については、『HIPAA and NCPDP Compliance Guide』を参照してください。</p>
13	<p>HIPAA 対応にするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ HIPAA 対応にする場合は、[ はい ]をクリックすると、適切なコンポーネントがインストールされます。次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> HIPAA 対応にすることを選択した場合は、Gentran:Server システムへのアクセスに使用するユーザー ID とパスワードを記録して、安全な場所に保管してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ HIPAA 対応にしない場合は、[ いいえ ]をクリックして次のステップに進みます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) ステップ	操作
14	<p>インテグレーション コンポーネントのインストールを選択し、5.0以前の Gentran:Server システムから 5.x システムにアップグレードするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アップグレードする場合は、新しいマップとフィールドに使用する既定のデータ形式を尋ねられます。自由な形式を使用する場合は、[ はい ] を、ASCII 文字に対応する形式を使用する場合は、[ いいえ ] をクリックします。ステップ 15 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 新しいマップやフィールドを作成すると、文字列フィールドに既定の形式が適用されます。この形式は、文字の確認の基礎となります。選択した規定の形式が ASCII 文字のみに対応する場合 (ほとんどのアメリカのユーザー) は、自由な形式は必要ありません。既定の形式に ASCII 文字以外の文字を使用する言語が含まれる場合は、自由な形式 (0x01 - 0x0FF) を選択します。</li> <li>— この選択は永久的なもので、いったん既定の設定を選択すると変更することはできません。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アップグレードしない場合は、ステップ 15 に進みます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> アップグレードの続行を確認するメッセージが表示されます。</p>
15	<p>アップグレードを続行するには [ はい ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> セットアッププログラムによって、次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 以前コンピュータにインストールしたコンポーネントのアップグレード</li> <li>▶ コミュニケーション スクリプトのアップグレード</li> <li>▶ システム トランスレーション オブジェクトのアップグレード</li> <li>▶ 必要に応じて、レジストリ エントリの追加</li> <li>▶ 必要に応じて、データベース テーブルの追加またはアップデート</li> <li>▶ 必要に応じて、プログラム グループとアイコンのビルド</li> <li>▶ 既存のファイルとアップグレード ファイルの日付とバージョンの確認</li> </ul> <p><b>メモ</b> データベースのサイズによって、アップグレード処理には数分から最大 2 時間までかかることがあります。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
16	<p>エラーが発生したかどうかを確認します。発生したかどうかによって次を実行して、ステップ 17 に進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラでエラーが発生した場合は、セットアップの再実行時に、自動回復を実行してデータベースを復元することを求めるメッセージが表示されます。[はい]をクリックして、自動回復を実行します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> 自動回復を実行しない場合は、[いいえ]をクリックします。次に、C: ドライブのルート フォルダから "gupgrade.log" ファイルを削除します。</p> <p><b>注意</b> エラーの原因になった問題 ( データベースのクラッシュ、ネットワーク ダウンなど ) を解決してから、セットアップを再実行します。</p> <p><b>参照</b> Install Shield のエラー メッセージのリストについては、『インストール ガイド』の付録「インストールのトラブルシューティング」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エラーが発生しなかった場合、アップグレード インストールの完了を知らせるメッセージが表示されます。</li> </ul>
17	<p>ロックされている共有 DLL があるというメッセージが表示されたかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示された場合は、コンピュータをすぐに再起動するか、後で再起動するかを尋ねるメッセージが表示されます。ステップ 18 に進みます。</li> <li>▶ 表示されなかった場合は、ステップ 19 に進みます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
18	<p>今すぐコンピュータを再起動するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 再起動する場合は、[ はい、今すぐコンピュータを再起動します ] オプションをオンにして [OK] をクリックすると、コンピュータが再起動します。</li> <li>▶ 再起動しない場合は、[ いいえ、後でコンピュータを再起動します ] オプションをオンにして [OK] をクリックすると、セットアッププログラムが終了します。</li> </ul> <p><b>注意</b> コンピュータを再起動する前に、実行中のほかのアプリケーションでの作業が保存されていることを確認してください。</p> <p><b>システムからの応答</b> セットアップで停止したサービスを再開するかを尋ねるメッセージが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server をアップグレードする場合、コア インストール (RosettaNet サービスなど) に含まれないすべての Gentran サービスは、そのサービスをインストールした特定のオプションのコンポーネントをアップグレードするまで、開始されません。</p>
19	<p>セットアップで停止したサービスをすぐに開始するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 開始する場合は、[ はい ] をクリックします。</li> <li>▶ 開始しない場合は、[ いいえ ] をクリックします。後から手動でサービスを再開する必要があります。</li> </ul> <p><b>参照</b> Gentran サービスを開始する方法の詳細については、『管理 ガイド』を参照してください。</p> <p><b>システムからの応答</b> インテグレーション コンポーネントをロードした場合、Standards CD から該当する Gentran:Server Standards をインストールする必要があるというメッセージが表示されます。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、該当する『Gentran:Server Standards Card』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) ステップ	操作
20	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> E メール通知を設定するには、使用する MAPI プロファイルを設定する必要があるというメッセージが表示されます。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、Manual CD の『MAPI ゲートウェイ設定 ガイド』を参照してください。</p>
21	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> 以前にオプションのコンポーネントをインストールしてある場合は、Option Pack CD を使用してこれらのコンポーネントをアップグレードする必要があるという内容のメッセージが表示されます。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、『オプションパック インストール カード』を参照してください。</p>
22	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> システムに Gentran:Server のエクステンションやゲートウェイがインストールされている場合、最新の Gentran:Server のリリースと互換性を保つために、これらをアップグレードしなければならない場合がありますという警告が表示されます。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、エクステンションのインストール用マニュアル、または『オプションパック インストール カード』を参照してください。</p>
23	<p>[OK] をクリックして、セットアップを終了します。</p> <p><b>システムからの応答</b> インストールが完了したことを伝えるメッセージが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> インテグレーション コンポーネントをアップグレードした場合は、Gentran Standards の読み込みを促すメッセージが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
24	<p>[OK] をクリックして、セットアップを終了します。これで、既存のシステムのアップグレードが完了し、オプションパックのオプションのコンポーネントをアップグレードする準備ができました。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server のオプション コンポーネントのインストール方法については、『オプションパック インストールカード』を参照してください。</p>



---

# インストール後の作業

目次

---

▶ はじめに .....	2
▶ Gentran:Server システムの起動方法.....	3
▶ セキュリティの実装方法 .....	7
▶ コミュニケーションズの実装方法 .....	8
▶ Gentran:Server のインストールを検証する方法.....	9

---

## はじめに

### 本章の内容

---

この章では、Gentran:Server を初めてインストールした後に実行する必要がある作業について説明します。

---



## Gentran:Server システムの起動方法

### はじめに

システムを初めてインストールした後で Gentran:Server をまだ起動していない場合は、ここで起動を行います。

#### メモ

- ▶ システムを起動するには、Windows の管理者権限と Gentran:Server の管理者権限が必要です。
- ▶ HIPAA 対応の Gentran:Server をインストールし、パスワードで保護されたスクリーンセーバーがデスクトップでアクティブになっていない場合は、スクリーンセーバーをアクティブにするまで Gentran:Server にログオンすることはできません。

### 手順

Gentran:Server システムを起動するには、次の手順に従います。

#### 参照

システムを停止する方法については、『管理ガイド』の「[システムの停止方法](#)」を参照してください。

ステップ	操作
1	<p>コンピュータで、システム構成プログラムを起動します。</p> <p><b>システムからの応答</b> システムが停止していることを知らせる、メッセージボックスが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> 使用中のセキュリティモードによっては、Gentran:Server を実行していないときに Gentran:Server のプログラム (クライアント通知、システム構成など) を起動すると、[ログイン] ダイアログボックスが表示される場合があります。</p>
2	<p>[OK] をクリックして、メッセージを確認します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [システム構成] ダイアログボックスの [コントローラ] タブが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> [コントローラ] タブでは、Windows の起動時に Gentran:Server エグゼクティブが自動的に起動するように設定できます。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server エグゼクティブを自動的に起動する方法の詳細については、『管理ガイド』の「<a href="#">コントローラの設定を変更する方法</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
3	<p>[ コントローラ ] ボックスに、プライマリ システム コントローラの名前が表示されているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示されている場合は、ステップ 4 に進みます。</li> <li>▶ 表示されていない場合は、[ コントローラ ] ボックスにコントローラ名を入力し、[ 選択 ] をクリックして、選択したコントローラの設定と起動 / 停止のコントロールを表示します。</li> </ul>
4	<p>[Gentran:Server エグゼクティブ] (プライマリ システム コントローラ) の右にある [ 開始 ] をクリックして、Gentran:Server エグゼクティブを初期化し、システムを開始します。</p> <p><b>システムからの応答</b> Gentran:Server システムが起動し、Gentran:Server エグゼクティブが正しく開始されると、Gentran ポーラおよび Gentran スケジューラの [ 開始 ] ボタンが表示されます。</p>
5	<p>Windows システムの起動時に、選択したコントローラで Gentran:Server エグゼクティブ サービスを開始するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 開始する場合は、Gentran:Server エグゼクティブ イネーブラの右にある [ 自動起動 ] チェックボックスをオンにします。</li> <li>▶ 開始しない場合は、ステップ 6 に進みます。</li> </ul>
6	<p>Gentran:Server エグゼクティブ サービスが依存するサービスが、適切な順番になっていることを確認します。[ 依存関係 ] をクリックして、Gentran:Server エグゼクティブの初期化より前に起動しなければならない次のサービスまたは読み込みオーダーグループを選択します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gentran オーディット通知サービス</li> <li>2. Gentran:Server メールボックス サービス</li> <li>3. Gentran:Server コミュニケーションズ サービス (インストールされている場合)</li> </ol> <p><b>注意</b> 依存関係の変更は慎重に行う必要があります。変更が適切かどうかを十分確認してください。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server エグゼクティブ サービスが依存するサービスの詳細については、『管理ガイド』の「<a href="#">システム管理者の機能</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
7	<p>Gentran ポーラ サービスを開始するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 開始する場合は、Gentran ポーラの右にある [ 開始 ] をクリックします。</li> <li>▶ 開始しない場合は、ステップ 8 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> Gentran ポーラを、Gentran:Server エグゼクティブの開始時に自動的に開始するように設定できます。また、Gentran ポーラでシステムをポーリングする間隔も指定できます。</p> <p><b>参照</b> Gentran ポーラを自動的に起動する方法、およびポーリングの間隔を設定する方法の詳細については、『管理 ガイド』の「<a href="#">コントローラの設定を変更する方法</a>」を参照してください。</p>
8	<p>Gentran スケジューラ サービスを開始するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 開始する場合は、Gentran スケジューラの右にある [ 開始 ] をクリックします。</li> <li>▶ 開始しない場合は、ステップ 9 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> Gentran スケジューラを、Gentran:Server エグゼクティブの開始後に自動的に開始するように設定できます。また、スケジュールされたイベントを Gentran スケジューラが確認する間隔も指定できます。</p> <p><b>参照</b> Gentran スケジューラを自動的に起動する方法、およびスケジュールの間隔を設定する方法の詳細については、『管理 ガイド』の「<a href="#">コントローラの設定を変更する方法</a>」を参照してください。</p>
9	<p>システムにほかのコントローラがあるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ある場合は、ステップ 10 に進みます。</li> <li>▶ ない場合は、ステップ 13 に進みます。</li> </ul>
10	<p>[ コントローラ ] ボックスにセカンダリ コントローラの名前を入力するか、[ 参照 ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ ネットワーク サーバーの選択 ] ダイアログ ボックスが表示されます。適切なコントローラを選択して、[ OK ] をクリックします。</p>
11	<p>選択したコントローラの設定および起動 / 停止コントロールを表示するには、[ 選択 ] をクリックします。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
12	4 から 9 までの手順を完了します。
13	[OK] をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

**次の手順**

---

「[セキュリティの実装方法](#)」に進んで、Gentran:Server を実装します。

---

## セキュリティの実装方法

### はじめに

システム セキュリティは、システムにログオンできるユーザーや、ユーザーが利用できる機能を管理するための手段で、継続的に行う重要なステップです。セキュリティにより、システムの特定の領域を変更できるユーザーを限定することで、データの整合性を守ることができます。Gentran:Server では、3つのセキュリティ モードがサポートされています。"統合"、"混合"、および"標準"。

#### 参照

使用するセキュリティ モードを決定するには、「[インストール後のセキュリティに関する推奨事項](#)」を参照してください。

### セキュリティ モードの指定

セキュリティ モードの指定には、システム構成プログラムを使用します。

#### 参照

セキュリティ モードを変更する方法の詳細については、『管理 ガイド』の「[システム構成 - \[セキュリティ\] タブ](#)」を参照してください。

#### 推奨事項

Gentran:Server とデータベースは、同じセキュリティ モードを使用してください。また、SQL Server では "統合セキュリティ モード" を、Oracle では "標準セキュリティ モード" を使用することをお勧めします。

### ユーザーの設定

ここで、システムに Gentran:Server ユーザーを追加する必要があります。

#### 参照

新しい Gentran:Server ユーザーを作成する方法の詳細については、『管理 ガイド』の「[新しいユーザーの追加方法](#)」を参照してください。

### 次の手順

すべてのコミュニケーションズ コントローラでモデムを構成する必要があります。「[コミュニケーションズの実装方法](#)」に進みます。

## コミュニケーションズの実装方法

### はじめに

---

コンピュータのモデムを構成する必要があります。また、共有を設定することも必要です。

#### 参照

これらの作業の詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』の「コミュニケーションズの構成」を参照してください。

### 次の手順

---

コミュニケーションズを実装したら、「[Gentran:Server のインストールを検証する方法](#)」の手順に従って、Gentran:Server のインストールを検証する必要があります。

---

## Gentran:Server のインストールを検証する方法

### はじめに

Gentran:Server をインストールしたら、システムが正しく設定されていることを確実にするために、インストールを検証する必要があります。

### 手順

次の表に、Gentran:Server のインストールを確認するために必要な手順をまとめます。

ステップ	操作
1	<p><b>データベース テーブルへの権限の確認：</b> データベース管理システムを使用して、Gentran:Server のインストール中にすべての権限が正しく設定されたことを確認します。</p> <p><b>参照</b> 個々の手順については、使用するデータベース管理システムのマニュアルを参照してください。</p>
2	<p><b>構成の設定の確認：</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ Gentran:Server のプログラム グループから [システム構成] プログラムを選択します。[システム構成] ダイアログ ボックスが表示されます。</li><li>▶ 各タブを選択して、インストールの設定が正しいことを確認します。</li></ul> <p><b>参照</b> 構成の変更の詳細については、『管理 ガイド』の「<a href="#">コントローラの設定を変更する方法</a>」を参照してください。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
3	<p>チュートリアルトランスレーション オブジェクトの登録: 次の Application and Forms Integration ANSI チュートリアルトランスレーション オブジェクトを登録します。これらのオブジェクトは、Gentran:Server がインストールされているフォルダの TUTORIAL サブフォルダに用意されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ PET_850.TPL (エクスポート トランスレーション オブジェクト)</li> <li>▶ PET_810.TPL (インポート トランスレーション オブジェクト)</li> <li>▶ HEADER.TPL (システム インポート トランスレーション オブジェクト)</li> <li>▶ PET_810S.TPL (画面入力トランスレーション オブジェクト)</li> <li>▶ PET_850P.TPL (印刷トランスレーション オブジェクト)</li> </ul> <p><b>参照</b> 詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法</a>」を参照してください。</p>
4	<p>チュートリアルパートナー関係のインポート:</p> <p>TUTORIAL フォルダに用意されている PETZONE.PRA パートナー関係をインポートします。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">パートナープロフィールのインポート方法</a>」のセクションを参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



(続き) ステップ	操作
5	<p><b>インポート操作の実行：</b> アプリケーション インテグレーション ANSI チュートリアル データを使用してインポートを行うには、次の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ パートナー エディタで、アウトバウンド関係に対して PET X 3030 810 インポート トランスレーション オブジェクトが選択されていることを確認します。</li> </ul> <p><b>参照</b> アウトバウンド トランスレーション オブジェクトを選択する方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">新しいアウトバウンド関係の作成方法</a>」のセクションを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システム構成プログラムの [インポート] タブでインポート指定を定義して、インポート処理中にトランスレーションを開始するために使用するシステム インポート トランスレーション オブジェクトを指定します。</li> </ul> <p><b>参照</b> インポートの指定を定義する方法の詳細については、『管理 ガイド』の「<a href="#">新しいインポート指定の定義方法</a>」を参照してください。この手順に従って、インポート指定を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システム構成プログラムを起動します。</li> <li>▶ [インポート] タブをクリックします。</li> <li>▶ [ファイル パス] ボックスに「*.txt」と入力します (かっこは不要です)。</li> <li>▶ [トランスレーション オブジェクト] リストから、[System Import HDR] を選択します。これは、登録されているシステム インポート トランスレーション オブジェクトです。</li> <li>▶ <b>[OK]</b> をクリックしてシステム構成プログラムを終了し、インポートの指定を保存します。</li> <li>▶ Gentran:Server の [インポート] オプションを使用して、トランスレーション オブジェクトでデータ ファイル (PET_810.TXT) を処理します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> データ ファイルは、Gentran:Server がインストールされているフォルダの TUTORIAL サブフォルダにあります。</p> <p><b>参照</b> ファイルのインポートの詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">ドキュメントのインポート方法</a>」のセクションを参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
5 ( 続き )	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トランスレーションされたドキュメントは、Gentran:Server の [ワークスペース] に格納されます。データを表示して、ドキュメントが正しくトランスレーションされていることを確認します。</li> </ul> <p><b>参照</b> データを表示する方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">ドキュメントの表示方法</a>」を参照してください。</p>
6	<p><b>ファイル処理操作の実行：</b> 次の手順を実行し、アプリケーション インテグレーション ANSI チュートリアル データを使用してエクスポート操作を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ パートナー エディタで、インバウンド 関係に対して PET X 3030 850 エクスポート トランスレーション オブジェクトが選択されていることを確認します。</li> </ul> <p><b>参照</b> インバウンド トランスレーション オブジェクトを選択する方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">新しいインバウンド関係の作成方法</a>」のセクションを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Gentran:Server の 塔 tファイル処理 i オプションを使用して、トランスレーション オブジェクトでデータ ファイル (PETTEST.INT) を処理します。データ ファイルは、TUTORIAL フォルダにあります。</li> </ul> <p><b>参照</b> ファイル処理の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">データ ファイルの処理方法</a>」を参照してください。</p>
7	<p><b>エクスポート操作の実行：</b> 手順 5 でトランスレーションされた後、ドキュメントは Gentran:Server の [ インドキュメント ] に置かれます。ドキュメントをエクスポートして、トランスレーションが正しく実行されたことを確認します。</p> <p><b>参照</b> ファイルのエクスポートの詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">ドキュメントのエクスポート方法</a>」を参照してください。</p>
8	<p><b>ドキュメント エディタへのアクセスの確認：</b> 『ユーザー ガイド』の「新規ドキュメントを作成する方法」のセクションの手順を実行して、ドキュメント エディタにアクセスできることを確認します。</p> <p><b>メモ</b> 実際にドキュメントを完成させる必要はないので、ドキュメント エディタが表示されたら、ただちに終了してもかまいません。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
9	<b>プロセス管理へのアクセスの確認：</b> Gentran:Server の [ ツール ] メニューから [ プロセス管理 ] を選択して、プロセス管理にアクセスできることを確認します。
10	<b>アプリケーション インテグレーションおよび Gentran Standards へのアクセスの確認 ( アプリケーション インテグレーションをインストールした場合のみ)：</b> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ インテグレーションコンポーネントをインストールした場合は、メインツールバーの [ アプリケーション インテグレーション ] アイコンをクリックして、アプリケーション インテグレーション サブシステムにアクセスできることを確認します。</li><li>▶ 『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』の「新規マップの作成」の手順を実行して、Gentran Standards にアクセスできることを確認します。</li></ul>
11	<b>通知ログへのアクセスの確認：</b> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [ スタート ] メニューから [ プログラム ] &gt; [ Gentran Server ] &gt; [ Gentran 通知ログ ] を選択して、Gentran 通知ログ コンポーネントへのアクセスを確認します。</li><li>▶ 次に、『管理ガイド』の「通知プロパティの修正方法」に説明されている手順にしたがって、通知パラメータを設定します。</li></ul>



---

# SQL Server 2000 のセットアップ

目次

---

<b>概要</b> .....	<b>2</b>
▶ はじめに .....	2
▶ インストール前の要件 .....	3
▶ データベースのバックアップ方法 .....	4
<b>Gentran:Server における SQL Server の使用</b> .....	<b>5</b>
▶ 概要 .....	5
▶ SQL Server を Gentran:Server 用に構成する方法 .....	6
▶ データベースにユーザーを追加する方法 .....	13
▶ Gentran:Server 用に ODBC DSN を作成する方法 .....	18

---

## 概要

### はじめに

#### 概要

Gentran:Server では、リレーショナル データベースを使用して、トラッキング、オーディット、プロセス管理、トランザクション オブジェクト、およびパートナー情報をテーブルに格納します。

データベース テーブルには、システム データ ストアにある実際のデータをポイントするインジケータが含まれています。システム データ ストアは、すべての共有 Gentran:Server データの保管場所です。このリレーショナル データベースを使用することで、複数のユーザーが同じデータにアクセスできるようになります。

Gentran:Server では、ODBC (Open Database Connectivity) を使用して、SQL Server などの異なるベンダーのデータベースを利用します。

#### メモ

ODBC と Microsoft Data Access Components (MDAC) は、SQL Server のインストール時にインストールされます。

#### 作業の概要

Gentran:Server をインストールする前に、次の作業を完了する必要があります。

- ▶ Gentran:Server テーブルを含んだデータベースを作成します。これらのデータベース テーブルは、Gentran:Server のインストール時にビルドされます。
- ▶ データベース管理システムにユーザーを追加し、ユーザーに Gentran:Server データベースへのアクセス権を与えます。
- ▶ データベースで使用できるように ODBC データ ソース名 (DSN) を設定します。

これらの作業を完了するために必要な手順は、使用するデータベース管理システムにより異なります。

#### この付録の内容

この付録では、SQL Server のデータベース管理を使用してこれらの作業を行う方法を概説します。次のトピックが含まれます。

- ▶ SQL Server の推奨オプション
- ▶ インストール前の要件
- ▶ データベースのバックアップ
- ▶ SQL Server の構成 (新規インストールのみ)

#### メモ

この付録では、SQL Server の新しいインストールの設定に必要な作業のみを概説します。つまり、SQL Server を初めてインストールする場合の作業です。

## インストール前の要件

---

**参照**

Gentran:Server 対応のソフトウェアについては、『インストール準備 カード』を参照してください。

---

**SQL Server の  
ハード ディスク  
空き容量の要件**

SQL Server 2000 では、前のバージョンよりもハード ディスクの空き容量が多く必要です。SQL Server のセットアッププログラムでは、SQL Server のプログラムおよびデータ ファイルのインストール先を指定できます。ただし、一部のファイルはシステム ディレクトリにインストールされ、これらのシステム ファイルのインストール先は変更できません。

**参照**

ハード ディスク空き容量の要件の詳細については、SQL Server のインストールに関するマニュアルを参照してください。

---

## データベースのバックアップ方法

### 概要

SQL Server のデータベースは、定期的にバックアップすることをお勧めします。また、Microsoft が推奨するデータベース保守を実行することもお勧めします。

### 参照

SQL Server データベースのバックアップと復元、および Microsoft の保守ユーティリティについては、Microsoft にお問い合わせください。Microsoft の製品情報、サポート、その他のリソースについては、次の URL を参照してください。

[www.microsoft.com/SQL/](http://www.microsoft.com/SQL/)

### バックアップで考慮すべき事項

バックアップの計画を行う際には、次の点を考慮してください。

- ▶ バックアップを実行する頻度
- ▶ バックアップするデータ ( データベース全体、あるいはトランザクション ログなど )
- ▶ バックアップを書き込む媒体 ( テープ、またはディスクなど )
- ▶ オンライン ( ユーザーの作業中 ) でバックアップを実行、または作業時間外にスケジュールで実行
- ▶ 手動バックアップ、または自動スケジュール機能を使用
- ▶ バックアップをスケジュールして自動実行する場合、正常にバックアップが行われたことの確認方法
- ▶ 記憶媒体を再利用するまでの、バックアップの保存期間
- ▶ 必要に応じて、最新のバックアップを使用したシステム復元までの所要時間
- ▶ 以前のシステム バックアップが変更されておらず、必要に応じて再利用できることを確認する手段の有無
- ▶ バックアップの保存場所
- ▶ 保管されているバックアップに必要な人員がアクセスできるかどうか
- ▶ バックアップの実行と、正常に実行されたことを確認する責任者
- ▶ システム管理者が不在の場合に、バックアップおよび復元を実行するために必要な知識、および適切なパスワードをもつユーザーが他にいるかどうか



# Gentran:Server における SQL Server の使用

## 概要

### このセクションの内容

このセクションでは、SQL Server のインストールおよび構成の例を、手順を追って説明します。ユーザーの追加、データベースへのアクセス権のユーザーへの付与、および Gentran:Server データベース用の ODBC DSN の作成が含まれます。

### データベース作成プロセス

次の表に、SQL Server のインストールおよびデータベースの構成に必要な作業をまとめます。

#### メモ

この表は、一連の必要な作業の概要を示したものです。

段階	説明
1	<b>Gentran:Server とともに使用する SQL Server のインストール：</b> SQL Server をまだインストールしていない場合は、SQL Server のマニュアルを参照してインストールします。  <b>参照</b> SQL Server のインストールに関する技術的な質問は、Microsoft のテクニカル サポートへお問い合わせください。
2	<b>Gentran:Server とともに使用する SQL Server の構成：</b> SQL Server を構成して、データベースを作成します。
3	<b>データベースへのユーザーの追加：</b> GENTRANUSERS グループに、データベースへのアクセス権を付与します。
4	<b>ODBC DSN の作成：</b> Gentran:Server データベースで使用する ODBC DSN を作成します。

## SQL Server を Gentran:Server 用に構成する方法

### はじめに

Gentran:Server をインストールする前に、Gentran:Server テーブルを含むデータベースを作成する必要があります。これらのデータベース テーブルは、Gentran:Server のインストール時にビルドされます。

### このセクションでの 注意事項

このセクションでは、次の点に注意してください。

- ▶ このセクションで示される手順は、SQL Enterprise Manager のウィザードで実行されます。SQL Server について精通していれば、ウィザードを使用しないで SQL を直接設定することも可能です。
- ▶ SQL Server の構成は非常に柔軟で、多数のオプションが用意されています。SQL Server で可能な構成を調べて、予想されるデータ量に合わせ、使用しているインストールに最適な設定を決定することをお勧めします。

### データベース 構成の表

データベースを作成する前に、次の表の項目を検討してください。既定値は、「推奨」の欄に示されています。

番号	確認項目	推奨
1	データベースの名前  <b>推奨事項</b> 整合性を保つために、データベースの名前はデータ ソースと同じにしてください。	GentranDatabase
2	データベースへのアクセス権が必要な Windows ユーザー グループの名前  <b>参照</b> このユーザー グループは、このマニュアルの「Gentran:Server のインストール」で作成したグループです。	GENTRANUSERS

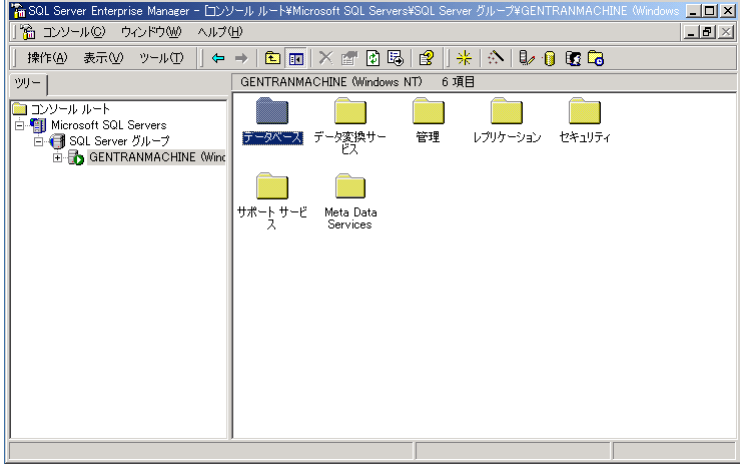
(次のページへ続く)

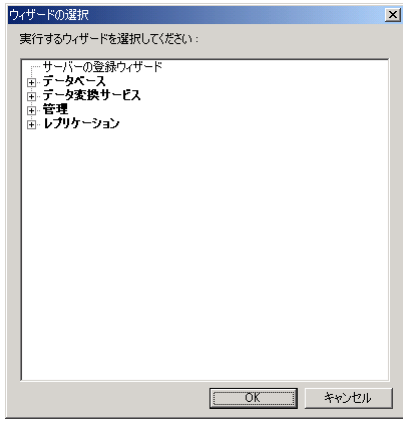

**手順**

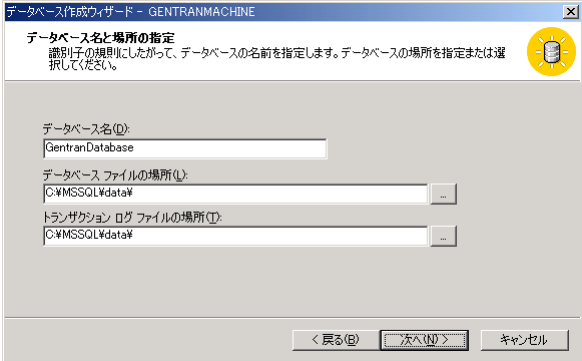
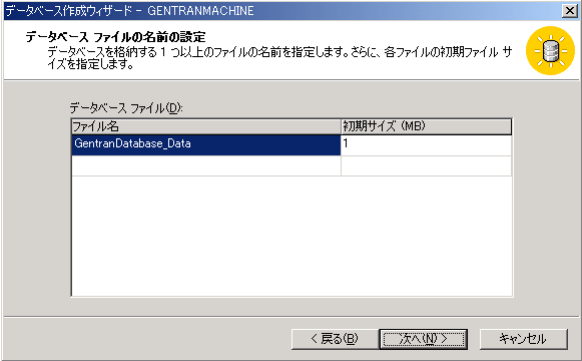
SQL Server を構成し、データベースを作成するには、次の手順に従います。

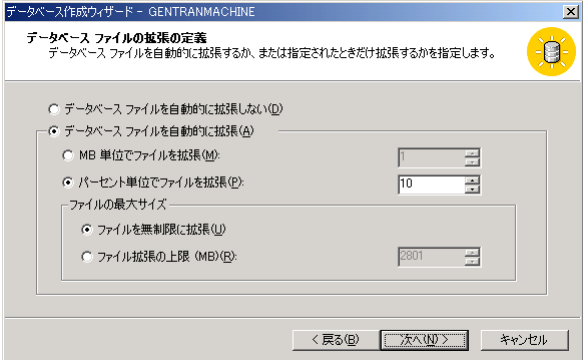
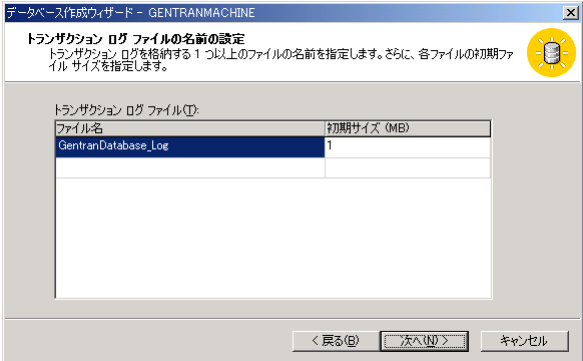
**メモ**

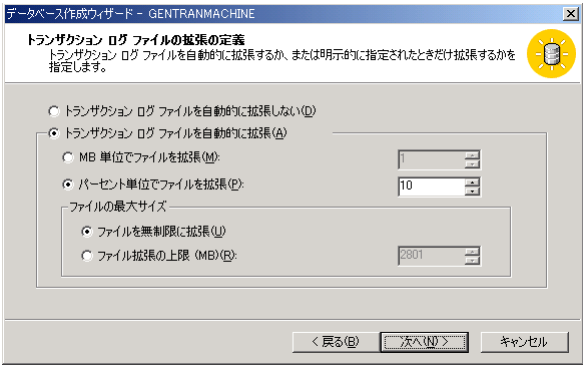
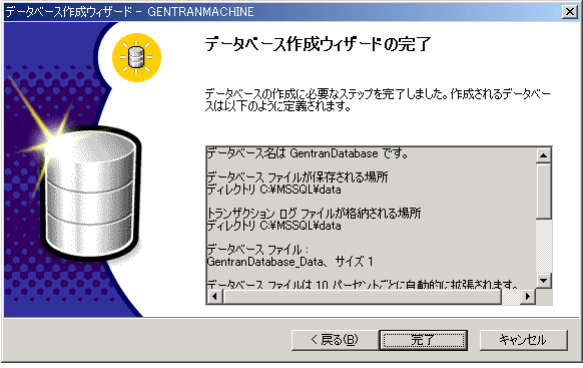
これらの作業を実行するために必要な手順は、SQL Server のバージョンによって異なります。このため、別のバージョンを使用する場合は、作業内容が異なります。次に示すのは、インストールの例です。

ステップ	操作
1	<p>[スタート]メニューから、[プログラム]&gt;[Microsoft SQL Server]&gt;[Enterprise Manager]を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> SQL Server Enterprise Manager を初めて起動した場合には、SQL Server の登録を求められます。以後のアクセスでは、Enterprise Manager が表示されます。</p>  <p>The screenshot shows the SQL Server Enterprise Manager interface. The left pane displays the server tree with 'GENTRANMACHINE' selected under 'SQL Server グループ'. The right pane shows the folders for the selected server: 'データベース' (Databases), 'データ変換サービス' (Data Transformation Services), '管理' (Management), 'レプリケーション' (Replication), 'セキュリティ' (Security), 'サポート サービス' (Support Services), and 'Meta Data Services'.</p>
2	<p>[SQL Server グループ] ノードを展開して、使用しているコンピュータの名前を選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
3	<p>[ ツール ] メニューから、[ ウィザード ] を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ ウィザードの選択 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ データベース ] ノードを展開します。</li> <li>▶ [ データベース作成ウィザード ] を選択します。</li> <li>▶ [ OK ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [ データベース作成ウィザード ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
5	<p>[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ データベース作成ウィザード ] の [ データベース名と 場所の指定 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ データベース名 ] フィールドに、データベース名として「GentranDatabase」と入力します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> Gentran:Server では大文字と小文字が区別されます。データベース名を入力する際には、大文字と小文字が正しく入力されていることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要に応じて、[ 場所 ] ボックスでデータベースの場所を変更します。</li> <li>▶ 必要に応じて、[ トランザクション ログ ファイルの場所 ] ボックスでトランザクション ログ ファイルの場所を変更します。</li> <li>▶ [ 次へ ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [ データベース作成ウィザード ] の [ データベース ファイルの名前の設定 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
7	<p>データベースのサイズの既定値 (1MB) はそのまま、[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ データベース作成ウィザード ] の [ データベース ファイルの拡張の定義 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ データベース ファイルを自動的に拡張 ] オプションがオンであることを確認します。</li> <li>▶ [ パーセント単位でファイルを拡張 ] ボックスは、既定値の 10 パーセントのままにしておきます。</li> <li>▶ [ 次へ ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>メモ</b> 必要に応じてデータベースを自動的に拡張 (成長) させることができるのは、SQL Server の新機能です。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ データベース作成ウィザード ] の [ トランザクション ログ ファイルの名前の設定 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
9	<p>トランザクション ログのサイズの既定値 (1MB) はそのまま、 [次へ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [データベース作成ウィザード] の [トランザクション ログ ファイルの拡張の定義] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [トランザクション ログ ファイルを自動的に拡張] オプションがオンであることを確認します。</li> <li>▶ [パーセント単位でファイルを拡張] ボックスは、既定値の 10 パーセントのままにしておきます。</li> <li>▶ [次へ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [データベース作成ウィザードの完了] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
11	<p>[完了] をクリックして、データベースの作成を完了します。</p> <p><b>システムからの応答</b> データベースが正常に作成されたというメッセージが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
12	[OK] をクリックして、メッセージを確認します。 <b>システムからの応答</b> [ 保守計画の作成 ] ダイアログ ボックスが表示されます。
13	データベースの保守計画を作成するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 作成する場合は、[ はい ] をクリックして、SQL Server のマニュアルを参照してください。</li><li>▶ 作成しない場合は、[ いいえ ] をクリックして Enterprise Manager に戻ります。</li></ul>
14	「 <a href="#">データベースにユーザーを追加する方法</a> 」に進みます。

---



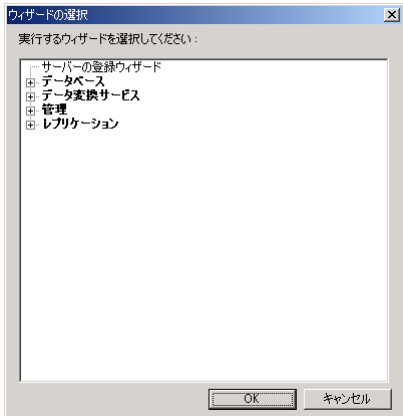
## データベースにユーザーを追加する方法


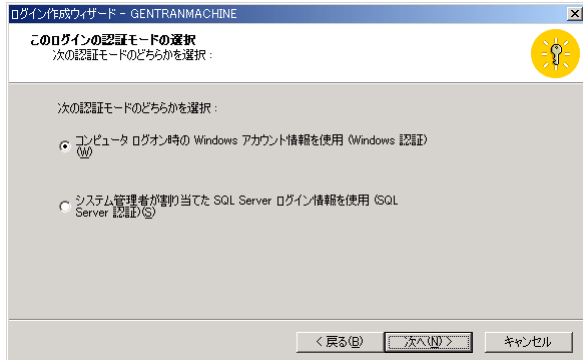
### はじめに

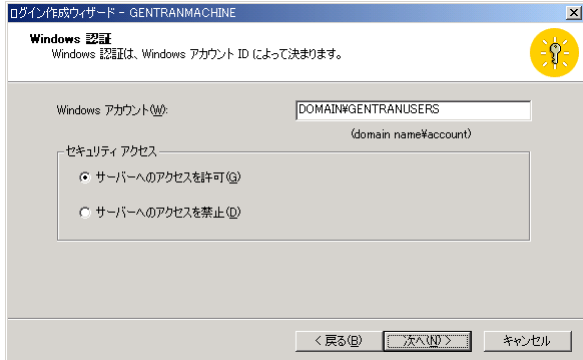
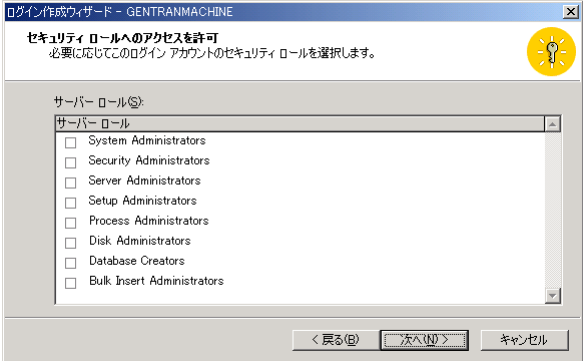
Gentran:Server テーブルを含むデータベースを作成したら、データベース管理システムにユーザーを追加して、ユーザーに Gentran:Server データベースへのアクセス権を付与する必要があります。

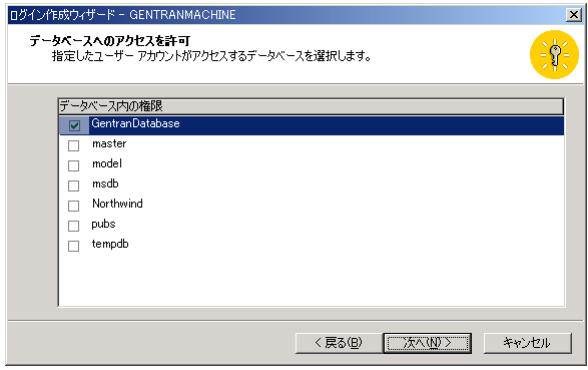

### 手順

SQL Server にユーザーを追加して、ユーザーにデータベースへのアクセス権を付与するには、次の手順に従います。

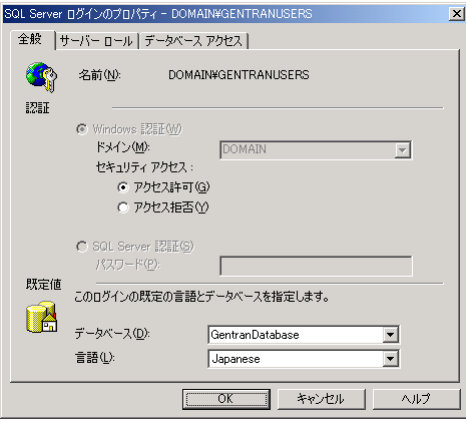
ステップ	操作
1	<p>SQL Enterprise Manager が実行されていない場合は、[ スタート ] メニューから、[ プログラム ] &gt; [ Microsoft SQL Server ] &gt; [ Enterprise Manager ] を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> Enterprise Manager が表示されます。</p>
2	<p>[ SQL Server グループ ] ノードを展開して、使用しているコンピュータの名前を選択します。</p>
3	<p>[ ツール ] メニューから、[ ウィザード ] を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ ウィザードの選択 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p>( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [データベース] ノードを展開します。</li> <li>▶ [ログイン作成ウィザード] を選択します。</li> <li>▶ [OK] をクリックします。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [ログイン作成ウィザード] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
5	<p>[次へ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ログイン作成ウィザード] の [このログインの認証モードの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
6	<p>Windows アカウント情報のオプションがオンであることを確認してから、[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ ログイン作成ウィザード ] の [ Windows 認証 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
7	<p>Windows アカウントのボックスに、ドメイン名またはコンピュータ名を入力します。その後、¥記号と、Gentran:Server ユーザーの Windows グループの名前を続けます (グループ名には GENTRANUSERS を推奨します)。[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この Windows ユーザー グループには、SQL データベースへのアクセス権が必要です。</li> <li>書式は次のとおりです。 複数のコントローラによるインストールでは、<i>DOMAIN¥GroupName</i>。 単独のコントローラまたはシングルワークステーションからなるインストールでは、<i>MACHINENAME¥GroupName</i>。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [ ログイン作成ウィザード ] の [ セキュリティ ロールへのアクセスを許可 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
8	<p>Gentran:Server のユーザーに、特別な権限が必要かどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な場合は、権限を選択してから [ 次へ ] をクリックします。</li> <li>▶ 不要な場合は、[ 次へ ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>メモ</b> この例では、Gentran:Server ユーザーに特殊な権限は必要ありません。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ ログイン作成ウィザード ] の [ データベースへのアクセスを許可 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
9	<p>使用する Gentran:Server データベース (GentranDatabase) が選択されていることを確認してから、[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ ログイン作成ウィザードの完了 ] ダイアログ ボックスに、許可したセキュリティ オプションが表示されます。</p> 

( 次のページへ続く )

( 続き ) ステップ	操作
10	<p>[完了]をクリックして、ウィザードを終了します。</p> <p><b>システムからの応答</b> ログインが正常に作成されたというメッセージが表示されます。</p>
11	<p>[OK]をクリックして、メッセージを確認します。</p> <p><b>システムからの応答</b> セットアッププログラムが終了して、Enterprise Manager に戻ります。</p> <p><b>メモ</b> 次に、追加した GENTRANUSERS グループの既定のデータベースとして、GentranDatabase を選択する必要があります。</p>
12	Enterprise Manager で、[セキュリティ]ノードを展開して[ログイン]を選択します。
13	<p>Enterprise Manager の右側のペインで、GENTRANUSERS グループを右クリックして[プロパティ]を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [SQL Server ログインのプロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
14	<p>[データベース]リストで GentranDatabase を選択して、[OK]をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> GentranDatabase を GENTRANUSERS グループの既定のデータベースとして保存し、Enterprise Manager に戻ります。</p>
15	次のセクション「 <a href="#">Gentran:Server 用に ODBC DSN を作成する方法</a> 」に進みます。

## Gentran:Server 用に ODBC DSN を作成する方法

### はじめに

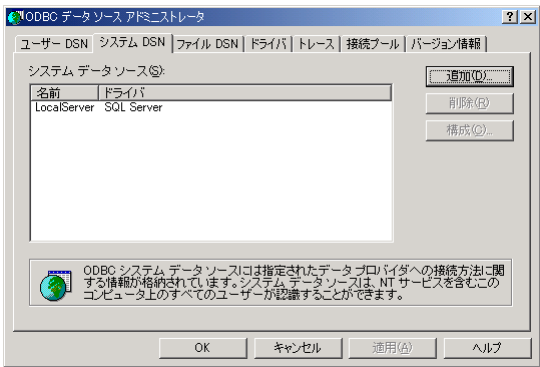
次に、作成した Gentran:Server データベースのために、ODBC データ ソース名を作成します。


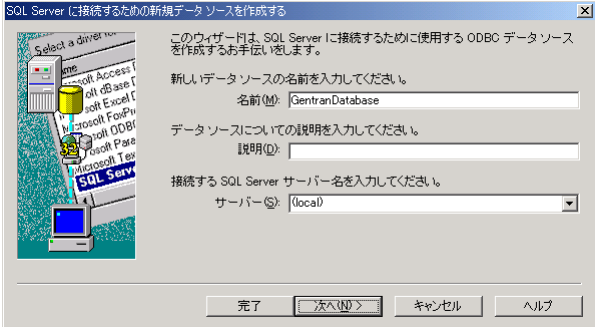
#### メモ

この DSN は、システム内のすべての Gentran:Server コンピュータで作成します。作成の作業は、Gentran:Server のインストールプロセス中の任意の時点で実行できます。

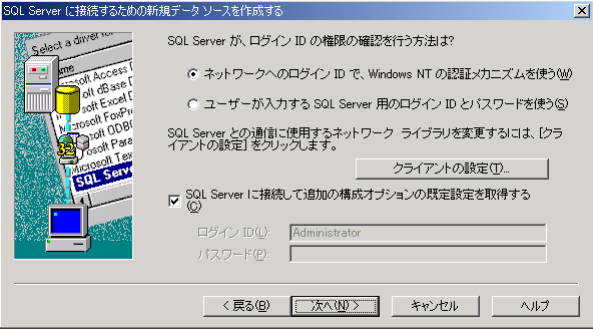
### 手順

ODBC DSN を作成するには、次の手順に従います。

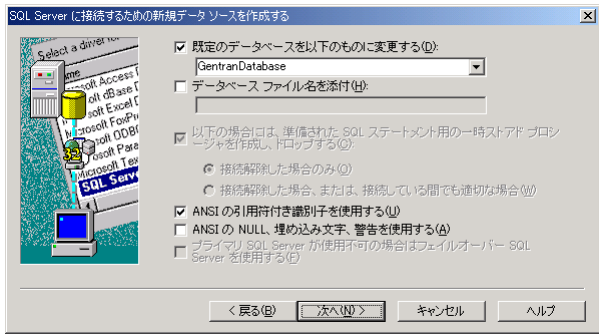
ステップ	操作
1	<p>[ スタート ] メニューから、[ 設定 ] &gt; [ コントロールパネル ] &gt; [ 管理ツール ] を選択し、[ データ ソース (ODBC) ] アイコンをダブルクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ODBC データ ソース アドミニストレータ] ダイアログ ボックス ([ ユーザー DSN] タブ) が表示されます。</p>
2	<p>[ システム DSN ] タブを選択します。</p> <p><b>推奨事項</b> コントローラの場合、Gentran:Server エグゼクティブ サービスがデータ ソースを使用できるようにするために、<i>system DSN</i> を使用する必要があります。すべての Gentran:Server コンピュータでシステム DSN を使用することをお勧めします。これにより、Gentran:Server エグゼクティブ サービスと、コンピュータ上のすべてのユーザーが、DSN を使用できるようになるからです。</p> <p><b>システムからの応答</b> システム DSN のオプションが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

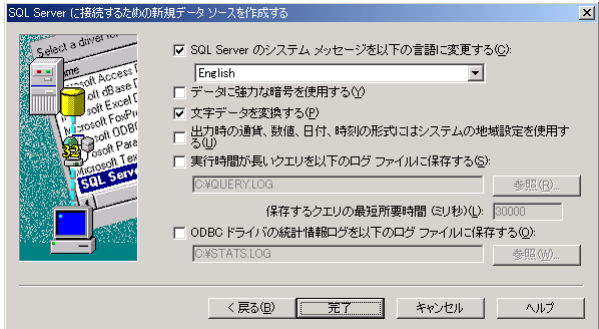
( 続き ) ステップ	操作
3	<p>[ 追加 ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ データ ソースの新規作成 ] ウィザードが表示されます。</p> 
4	<p>ドライバのリストから SQL Server の ODBC ドライバを選択し、[ 完了 ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する] ダイアログ ボックス (ウィザードの 1 番目のダイアログ ボックス) が表示されます。</p> 


( 次のページへ続く )

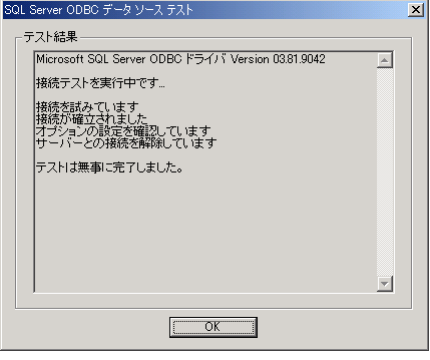
( 続き ) ステップ	操作
5	<p>次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [名前] ボックスに、このシステムの Gentran:Server で使用する ODBC データ ソースの名前 (GentranDatabase) を入力します。</li> <li>▶ [サーバー] リストから、[(local)] ( コンピュータに SQL Server がインストールされている場合 ) か、データベースがあるコンピュータの名前を選択します。</li> <li>▶ [次へ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する] ダイアログ ボックス (ウィザードの 2 番目のダイアログ ボックス) が表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) ステップ	操作
6	<p>次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [ネットワークへのログイン ID で、Windows の認証メカニズムを使う] オプションが選択されていることを確認します。</li></ul> <p><b>メモ</b> このオプションをオンにすると、SQL Server の ODBC ドライバが、Windows で実行されている SQL Server への信頼された接続を使用するようになります。オンの場合、SQL Server は統合されたセキュリティを使用して、このデータ ソースを介した接続を確立します。</p> <p><b>推奨事項</b> Gentran:Server とデータベースのセキュリティ モードは同じにしておくことをお勧めします。Windows 認証 (統合) セキュリティ モードの使用をお勧めします。このセキュリティ モードでは、Windows オペレーティング システムのセキュリティ機能 (暗号化パスワード、パスワードの有効期間設定、ドメイン全体のユーザー アカウント) を利用できます。このモードでは、Gentran:Server と Windows のユーザー ID が同じであれば、ユーザーが Gentran:Server へのサイン オンを要求されることはありません。<li>▶ [次へ] をクリックします。</li><p><b>システムからの応答</b> [SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する] ダイアログ ボックス (ウィザードの 3 番目のダイアログ ボックス) が表示されます。</p><p>( 次のページへ続く )</p></p>

( 続き ) ステップ	操作
7	<p>次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [既定のデータベースを以下のものに変更する] チェックボックスをオンにして、リストから [GENTRANDatabase] を選択します。</li> <li>▶ [ANSI の Null、埋め込み文字、警告を使用する] チェックボックスをオフにして、SQL Server での NULL 比較、警告メッセージ、および前後のブランク文字の自動削除で ANSI のルールが強制されることのないように指定します。</li> <li>▶ [次へ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する] ダイアログ ボックス (ウィザードの 4 番目のダイアログ ボックス) が表示されます。</p> 
8	<p>[SQL Server のシステム メッセージを以下の言語に変更する] チェックボックスをオンにして、リストから [English] を選択します。</p> <p><b>メモ</b> 英語版以外の SQL Server を使用する場合でも、Gentran SQL Server メッセージで使用される言語は英語に変更する必要があります。特に、Gentran:Server で GentranDatabase へのアクセスに使用される ODBC データ ソース名は英語でなければなりません。</p> <p><b>システムからの応答</b> Gentran に関連するすべての SQL エラー メッセージは、SQL のログに英語で書き込まれます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
9	<p>SQL Server の既定である ISO-8559 以外のコード ページを使用しているかどうかによって、次を実行します (たとえば、SQL Server のカスタム インストールを実行し、北米用の 850 コード ページや、米国用の 437 コード ページを選択した場合など)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 使用している場合は、[ 文字データを変換する ] チェックボックスがオンであることを確認してから、[ 完了 ] をクリックします。</li> <li>▶ 使用していない場合 (たとえば、SQL Server の標準インストールを実行した場合や、カスタム インストールで既定のコード ページを使用した場合) は、[ 文字データを変換する ] チェックボックスをオフにしてから [ 完了 ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>メモ</b> クライアント コンピュータで SQL Server とは異なる ANSI コード ページを使用している場合は、ANSI 文字列が正しく解釈されない可能性があります。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ODBC Microsoft SQL Server セットアップ] ダイアログ ボックスに、GentranDatabase 用の DSN の構成が表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
10	<p>[ データ ソースのテスト ] をクリックして、DSN の構成をテストします。</p> <p><b>システムからの応答</b> DSN のテストが正常に完了した場合には、次のメッセージが表示されます。</p> 
11	[OK] をクリックして、メッセージを確認します。
12	[OK] をクリックして、ODBC アドミニストレータを終了します。
13	<p>これで、Gentran:Server をインストールする準備が整いました。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、「<a href="#">インストールプロセス</a>」を参照してください。</p>

# ORACLE<sup>®</sup> のセットアップ

## 目次

<b>概要</b> .....	<b>2</b>
▶ はじめに .....	2
<b>Gentran:Server とともに使用する ORACLE のセットアップに関する推奨事項</b> .....	<b>3</b>
▶ 概要 .....	3
▶ すべてのコンピュータへの SQL *Net <sup>®</sup> のインストール .....	4
▶ データベース テーブル用の新しいテーブルスペースの定義 .....	5
▶ 新しい DB 管理者アカウントの作成 .....	6
▶ ORACLE に Gentran ユーザーを追加する方法 .....	7
▶ ORACLE への Gentran:Server エグゼクティブ ログオン アカウントの追加 .....	9
▶ オープン カーソルの既定値を変更する方法 .....	11
▶ Gentran での標準セキュリティ モードの使用 .....	12
▶ Gentran:Server における Oracle データベース ODBC ドライバの使用 .....	13

## 概要

## はじめに

### Gentran:Server の データベース 使用方法

Gentran:Server では、リレーショナル データベースを使用して、トラッキング、オーディット、プロセス管理、トランザクション オブジェクト、およびパートナー情報をテーブルに格納します。

データベース テーブルには、システム データ ストアにある実際のデータをポイントするインジケータが含まれています。システム データ ストアは、すべての共有 Gentran:Server データの保管場所です。このリレーショナル データベースを使用することで、複数のユーザーが同じデータにアクセスできるようになります。

Gentran:Server では、ODBC (Open Database Connectivity) を使用して、SQL Server を含む異なるベンダーからデータベースを利用します。

#### メモ

既定の Oracle ODBC ドライバは、ORACLE のインストール時にインストールされます。既定以外のドライバを使用する場合は、そのドライバをインストールする必要があります。

### 作業の概要

Gentran:Server をインストールする前に、ORACLE についてよく理解し、Gentran:Server とともに使用できるように ORACLE を設定しなければなりません。

また、ORACLE データベース管理者 (dba) は、Gentran:Server 用の新しい INSTANCE (データベース) を作成するか、既存の INSTANCE に Gentran:Server 用の新しい TABLE SPACE を設定する必要があります。

これらの作業を完了するために必要な手順は、使用するデータベース管理システムにより異なります。

### この付録の内容

この付録では、Gentran:Server とともに使用するために ORACLE を設定する場合の推奨事項を概説します。

#### 参照

これらの作業を実行するために必要な手順については、ORACLE のマニュアルを参照してください。

# Gentran:Server とともに使用する ORACLE の セットアップに関する推奨事項

## 概要

### はじめに

---

次のセクションに、Gentran:Server とともに使用する ORACLE のセットアップに関する推奨事項を示します。

#### 参照

これらの作業を実行するために必要な手順については、ORACLE のマニュアルを参照してください。

---

## すべてのコンピュータへの SQL \*Net<sup>®</sup> のインストール

### はじめに

---

Gentran:Server をコンピュータにインストールする前に、そのコンピュータで SQL \*Net がインストールおよび構成されている必要があります。このソフトウェアは、コンピュータと ORACLE のインターフェイスになります。

ALIAS の名前 (SQL \*Net 接続文字列) は、ORACLE dba により決定されます。命名に関する制限はありません。

### メモ

ALIAS 名は ODBC のセットアップ時に必要となるので、後で使用できるように記録しておいてください。Oracle の最新バージョンでは、SQL \*Net が "Net Service" と呼ばれています。

---



## データベース テーブル用の新しいテーブルスペースの定義

### はじめに

---

ORACLE で、Gentran:Server のデータベース テーブルを作成するための新しいテーブルスペースを定義してください。そうすれば、システム テーブルスペースにデータベース テーブルが作成されることはありません。

---

## 新しい DB 管理者アカウントの作成

### はじめに

---

Gentran:Server をインストールする前に、Gentran:Server のインストール中にデータベース テーブルを作成するときに使用する、新しいデータベース管理者 (dba) のアカウントを作成することをお勧めします。

### 推奨事項

Gentran:Server エグゼクティブ サービスが Windows へログオンする際に使用するものと同じ、Windows 管理アカウントを使用することをお勧めします。

新しい dba ログオンを作成するときには、Gentran:Server データベース テーブル用に作成した新しいテーブルスペースを、このアカウントの既定として指定してください。

### メモ

Gentran:Server データベース テーブルは、このアカウントのスキーマの下に作成されます。

---

## ORACLE に Gentran ユーザーを追加する方法

### はじめに

各 Gentran:Server ユーザーを、ORACLE に追加する必要があります。ORACLE は、Windows セキュリティとのインターフェイスは行いません。このため、すべての Gentran:Server ユーザーを含む Windows グループを設定しても、ORACLE はグループを認識しません。

これらのユーザーに付与しなければならない役割 ( 権利 ) は、次のとおりです。

- ▶ 選択
- ▶ 挿入
- ▶ 削除
- ▶ 更新

( 次のページへ続く )

## 手順

ORACLE に追加する必要がある Gentran:Server ユーザーを確認するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[スタート]メニューから、[プログラム]&gt;[管理ツール]&gt;[ユーザー マネージャ]を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ユーザー マネージャ]が表示されます。</p>
2	<p>[ユーザー マネージャ]ウィンドウの下側のフレーム内で、[GENTRANUSERS]グループをダブルクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ローカルグループのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。</p> <div data-bbox="619 891 1093 1310" data-label="Image"> </div> <p><b>メモ</b> [所属するメンバ]リストボックスに表示されているユーザーは、ORACLE に追加する必要があるユーザーです。</p>

## ORACLE への Gentran:Server エグゼクティブ ログオン アカウントの追加

### はじめに

Gentran:Server エグゼクティブ サービスがログオンできるように、1人のユーザーに dba の権限 (付与される役割) を付与しなければなりません。このアカウントを ORACLE に追加する必要があります。

### 推奨事項

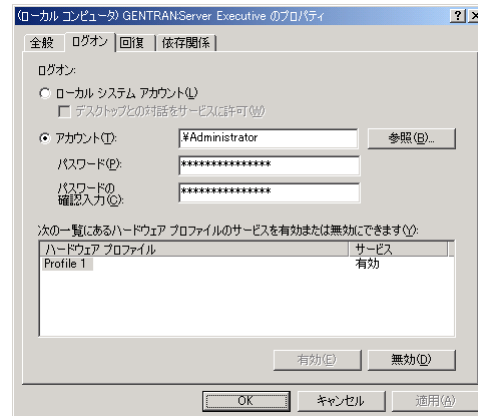
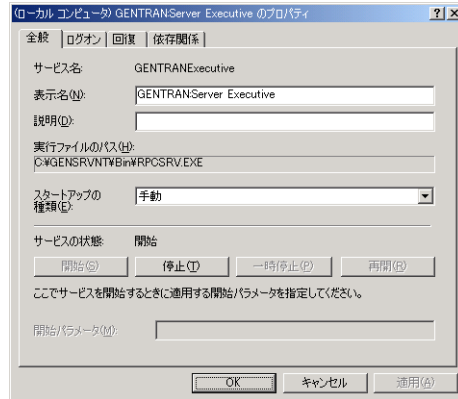
Gentran:Server エグゼクティブ サービスが Windows へログオンする際に使用するものと同じ、Windows 管理アカウントを使用することをお勧めします。さらに、このアカウントは DB 管理者のアカウントと同じものにすることをお勧めします。

Gentran:Server のインストール後、[サービス] ダイアログ ボックスで Gentran:Server エグゼクティブ サービスを選択して [起動] をクリックすると、このアカウントが表示されます。[サービス] ダイアログ ボックスを表示するには、[スタート] メニューから、[プログラム] > [コントロール パネル] > [サービス] をクリックします。

(次のページへ続く)



この [サービス] ダイアログ ボックスの例では、Gentran:Server エグゼクティブ サービスが Windows へのログオンに使用するアカウントが表示されています。



## オープン カーソルの既定値を変更する方法

### はじめに

ORACLE で許可されているオープン カーソルの既定値は 50 です。この値は、使用している Oracle のバージョンによって異なることがあります。実際の電子商取引 (EC) を実行する場合、平均的な規模の企業ではこの値を 5,000 以上に設定する必要があります。

オープン カーソルの数は ORACLE 起動ファイルで変更します。通常、このファイルは ORACLE\ORADATA にあります。起動ファイルの名前は「init\*\*\*\*.ora」です。「\*\*\*\*」の部分には、インスタンスの名前が入ります。

#### メモ

Oracle 9i では、構成に PFILE と SPFILE が使用されます。

### 手順

オープン カーソルの数を変更するには、次の行を起動ファイルの任意の場所に追加します。二重引用符は必要ありません。

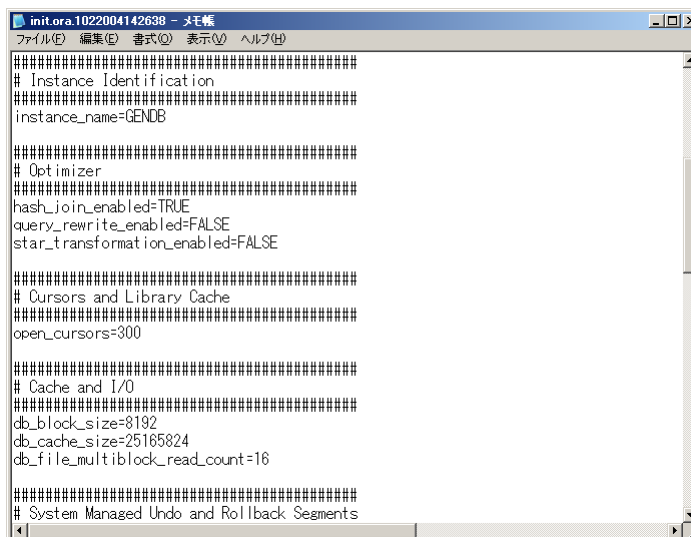
```
"open_cursors = 5000"
```

#### メモ

Oracle 9i では、この行を PFILE に追加します。

### 例

次の図に、オープン カーソルの既定値を変更する方法を示します。



```
init.ora.1022004142638 - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
#####
# Instance Identification
#####
instance_name=GENDG
#####
# Optimizer
#####
hash_join_enabled=TRUE
query_rewrite_enabled=FALSE
star_transformation_enabled=FALSE
#####
# Cursors and Library Cache
#####
open_cursors=300
#####
# Cache and I/O
#####
db_block_size=8192
db_cache_size=25165824
db_file_multiblock_read_count=16
#####
# System Managed Undo and Rollback Segments
#####
```

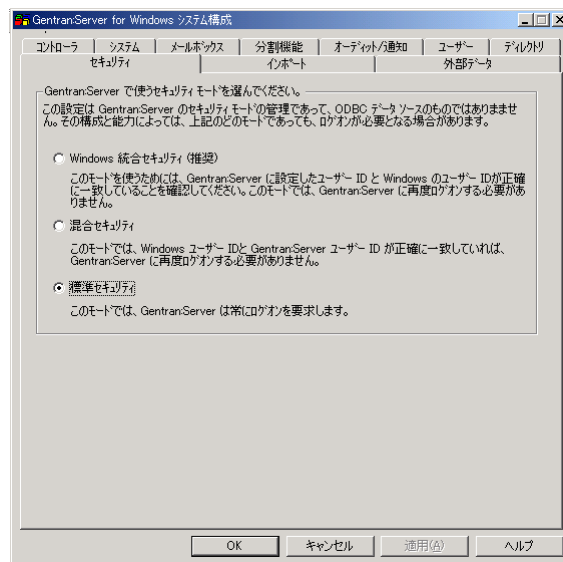
## Gentran での標準セキュリティモードの使用

### はじめに

ORACLE を使用する場合、Gentran:Server のセキュリティモードを、既定の "標準" のままにしておくことをお勧めします。標準セキュリティモードでは、ユーザーが毎回 Gentran:Server へのログインを行う必要があります。[ログイン] ダイアログボックスでは、既定で Windows のユーザー名が表示されます。

### 図

このため、[Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログボックスの [セキュリティ] タブは、既定では次のように構成されます。



### 手順

『インストールガイド』の「インストール後の作業」の章では、Gentran:Server のセキュリティモードを "統合" にすることを推奨しています。セキュリティオプションは、システム構成サブシステムの [セキュリティ] タブで設定します。ORACLE を使用する場合は、『インストールガイド』の統合セキュリティの推奨と、「セキュリティの導入」のセクション全体は、例外として適用されません。

### 注意

ORACLE では、統合や混合のセキュリティを使用しないことを特にお勧めします。これは、ORACLE セキュリティが既定では Windows セキュリティと連結しないためです。



# Gentran:Server における Oracle データベース ODBC ドライバの使用

## はじめに

2000年3月24日の時点では、OracleのODBCドライバに問題があるため、Gentran:Server for Windows リリース 5.x では、Oracle から提供されている ODBC ドライバでは、Oracle データベースを適切に使用できません。スターリング コマースが Oracle と協議を行った結果、Oracle の ODBC ドライバには ADO の RecordCount プロパティの戻り値が常に -1 ( マイナス 1) になるという問題があることを確認しました。この問題の修正状態は、Oracle の BUG 番号 11962102.600 で確認できます。

## Gentran:Server への影響

Oracle の ODBC ドライバの問題は、Gentran:Server のオーデイト通知サービスにのみ影響します。このサービスではプログラミングで ODBC のこの機能が使用されるためです。Gentran:Server のほかのサービスでは、この機能が使用されないため、この問題による影響はありません。

### 注意

Gentran:Server のインストールまたはアップグレードの前に ODBC ドライバがインストールおよび構成されていない場合、Gentran:Server のオーデイト通知サービスは起動に失敗します。この結果、すべての Gentran:Server サービスは開始できません。また、ODBC ドライバのインストールまたはアップグレードに失敗すると、データベースが壊れる可能性があります。

## 解決策

Oracle によりこの問題が解決されるまでは、一時的な措置として2つの ODBC データソースを使用しなければなりません。新規システムをインストールするか、既存のシステムをアップグレードするかによって、[新しい Gentran:Server 5.x システムのインストール前の作業手順](#) または [Gentran:Server 3.x システムからアップグレードを行う前の手順](#) のセクションにリストされている手順に従った後、システムは2つのデータソース名 (DSN) が使用されます。1つは Microsoft ODBC for Oracle ドライバを使用した DSN、もう1つは Oracle から提供されている ODBC ドライバを使用した DSN です。Microsoft DSN は Gentran オーデイト通知サービスに、Oracle DNS は Gentran:Server メールボックス、Gentran:Server エグゼクティブ、Gentran:Server コミュニケーションズ サービスに使用されます。

### メモ

Microsoft Data Access Components (MDAC) と、Oracle ODBC ドライバのサポートされているバージョンについては、『インストール準備カード』を参照してください。Microsoft ODBC for Oracle のドライバは、MDAC のインストール時にインストールされます。

(次のページへ続く)

新しい  
Gentran:Server 5.x  
システムのインス  
トール前の作業手順

新しい Gentran:Server 5.x システムをインストールする際に、Oracle データベースをインストールするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>Windows に 2 つの ODBC データ ソースを作成します。1 つは Microsoft for Oracle ドライバを使用したデータ ソース、もう 1 つは Oracle ODBC ドライバを使用したデータ ソースです。</p> <p><b>メモ</b> どちらのデータ ソースも一意の名前をもち、システム DNS として設定されていることを確認します。</p> <p><b>参照</b> データ ソースの作成方法の詳細については、このインストールガイドの「<a href="#">シングルワークステーションシステムのインストール方法</a>」のステップ 12、または、ODBC のマニュアルを参照してください。</p>
2	<p>Oracle ODBC のテストツールがある場合は、両方のドライバからデータベースに接続できることを確認します。</p> <p><b>参照</b> Oracle ODBC テスト ツールの使用方法については、Oracle のマニュアルを参照してください。</p>
3	<p>Gentran:Server のインストールを開始します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、このインストールガイドの「<a href="#">シングルワークステーションシステムのインストール方法</a>」を参照してください。</p>
4	<p>Gentran:Server で使用する DSN 名の入力を求められたら、Microsoft ODBC for Oracle ドライバで作成した DSN 名を入力します。</p>
5	<p>プライマリ Gentran システム コントローラのインストールを完了し、必要なオプションを Option Pack CD からインストールします。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、『オプションパック インストールカード』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
6	<p>インストールを検証するには、ステップ 6 から 15 に進んでください。それ以外の場合は、これで Oracle データベースへのインストールは完了です。</p> <p>インストールプロセスが完了後、[ スタート ] メニューから、[ プログラム ] &gt; [ Gentran Server ] &gt; [ Gentran Server Configuration ] を選択して、Gentran System の構成ユーティリティを実行します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ システム構成 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
7	<p>[ システム ] タブを選択し、[ ODBC データ ソース ] リストから Oracle ODBC ドライバを使用する DSN を選択します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、『管理 ガイド』の「ODBC データソースの変更方法」を参照してください。</p>
8	<p>[ オーディット / 通知 ] タブを選択し、[ サーバー ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ ] ダイアログボックスが表示され、データベースと通知サーバーのオプションを設定できます。</p>
9	<p>[ ODBC データ ソース ] リストで、オーディット通知サービスの ODBC データ ソースの DSN に Microsoft ODBC ドライバを使用するものが指定されていることを確認し、必要に応じて、設定を変更します。</p>
10	<p>[ OK ] をクリックして、システム構成ユーティリティを終了します。</p>
11	<p>[ スタート ] メニューから、[ プログラム ] &gt; [ Gentran Server ] &gt; [ Gentran Server メールボックス ] を選択して、Gentran メールボックス サーバー マネージャーを実行します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ メールボックス サーバー マネージャ ] が表示されます。</p>
12	<p>メールボックス サーバーを登録します。</p> <p><b>メモ</b> メールボックス サーバーは、Gentran:Server システムの Windows コンピュータの名前です。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、『コミュニケーションズ ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
13	<p>表示されているサーバー名を右クリックして [プロパティ] を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
14	<p>[データベース] タブの [ODBC データ ソース] リストで、ODBC データ ソースの設定を、Oracle ODBC ドライバを使用する DSN に変更し、[OK] をクリックして変更を保存します。</p>
15	<p>この手順を完了した後に、[コントロール パネル] から Windows の [サービス] ダイアログ ボックスにアクセスし、次の順番で Gentran:Server の各サービスを停止および再起動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット通知</li> <li>▶ メールボックス</li> <li>▶ エクゼクティブ</li> </ul> <p><b>参照</b> サービスの停止および開始の詳細については、Windows のマニュアルを参照してください。</p>

### Gentran:Server 3.x システムから アップグレードを 行う前の手順

Gentran:Server システムをバージョン 3.x からアップグレードする場合のみに限り、Oracle データベースをインストールするには、プライマリ Gentran システムコントローラで次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>Microsoft for Oracle ドライバとして、2 つ目の ODBC データ ソースを作成してください。</p> <p><b>メモ</b> 両方の DNS 名が異なった名前であり、システム DNS として設定されていることを確認してください。</p> <p><b>参照</b> データ ソースの作成方法の詳細については、このインストールガイドの「<a href="#">シングルワークステーションシステムのインストール方法</a>」のステップ 12、または、ODBC のマニュアルを参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

<b>( 続き ) ステップ</b>	<b>操作</b>
2	<p>Oracle ODBC のテストツールがある場合、両方のドライバからデータベースに接続できるかどうか試してください。</p> <p><b>参照</b> Oracle ODBC テスト ツールの使用方法については、Oracle のマニュアルを参照してください。</p>
3	<p>Gentran:Server のアップグレードを開始します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、『管理 ガイド』の「Gentran:Server のアップグレード方法」を参照してください。</p>
4	<p>インストール中にデータベースへのログインを求められたら、GentranDatabase データベース テーブルのスキーマの所有者である ID を入力します。</p> <p><b>メモ</b> アップグレードの完了後、この所有者は Gentran:Server サービスを再起動できなくなります。</p>
5	<p>プライマリ Gentran システム コントローラのインストールを完了し、必要なオプションを Option Pack CD からインストールします。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、『オプションパック インストール カード』を参照してください。</p>
6	<p>Windows のレジストリ エディタを起動してください。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、Windows のマニュアルを参照してください。</p>
7	<p>レジストリ キーを開いてください。</p> <p><b>HKEY_Local_Machine¥SOFTWARE¥Sterling Commerce¥Gentran¥AuditNotification¥5.x (バージョンはインストールする Gentran のバージョンによって異なります)¥Server¥DSN</b></p>
8	<p>既にインストールされている Oracle DSN 名から、Microsoft ドライバとして使用する DSN 名に、DSN の値を変更し <b>[OK]</b> をクリックしてください。</p>
9	<p>レジストリ エディタを終了してください。</p>
10	<p>レジストリ エディタで編集終了後、次のステップに進む前にシステムを再起動してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
11	<p>この手順を完了した後に、[コントロール パネル] から Windows の [サービス] ダイアログ ボックスを開き、次の順番で Gentran:Server の各サービスを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット通知</li> <li>▶ メールボックス</li> <li>▶ エグゼクティブ</li> <li>▶ コミュニケーションズ</li> </ul> <p><b>参照</b> サービスの停止および開始の詳細については、Windows のマニュアルを参照してください。</p>
12	<p>サービスが起動しない場合、Windows が返すエラー番号次第で次のような可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>2140 エラー</b>：サービスの起動に必要な(データベース内の)トランザクションが完了できない可能性があります。</li> </ul> <p>データベース内の Oracle ID の権限と、データベース テーブルの整合性を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>2186 エラー</b>：一般的にこのエラーは、セキュリティーに問題があることを意味します。</li> </ul> <p>サービスに対する ID とパスワードを再入力してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>1068 エラー</b>：サービスが順序どおりに起動していません。Gentran:Server エグゼクティブ サービスはメールボックス サービスに、メールボックス サービスはオーディット / 通知サービスに、オーディット / 通知サービスはデータベース サービスに依存しています。</li> </ul> <p>前のステップに戻り、順序どおりにサービスを再起動してください。</p>

### Microsoft ODBC ドライバの入手

Microsoft の ODBC ドライバは、最新の MDAC ソフトウェアの一部として、Microsoft の Web サイト (<http://www.microsoft.com/data>) から入手できます。

### 問い合わせ先

上記の内容についてさらにサポートが必要な場合やご質問は、カスタマ サポートまでお問い合わせください。

### 参照

サポートの連絡先については、『インストール準備 カード』を参照してください。

---

# インストールのトラブルシューティング

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ Gentran:Server のインストールのトラブルシューティング .....	3
▶ InstallShield のエラーメッセージ .....	7

---

## 概要

### この付録の内容

---

この付録では、Gentran:Server インストールのトラブルシューティングに関する基礎的な情報について説明し、一般的なインストールの問題の解決に必要な一連の操作について説明します。

また、この付録には、InstallShield の一般的なエラー メッセージのリストと、エラーの原因を解明するためのヒントも含まれています。

---



# Gentran:Server のインストールのトラブルシューティング

## 問題と解決策

次の表に、Gentran:Server のインストールに関する一般的な問題と、それらの解決に必要な手順を示します。

問題	解決策
<p>セットアップ プログラムは正常に完了したが、Gentran:Server へログオンしようとするときデータベースへのログオンに関するエラーメッセージが表示される。</p>	<p>インストール中に適切なデータベース ログインが指定されませんでした。インストールされた Gentran:Server のすべてのコンポーネントを削除します。詳細については、『管理 ガイド』の「インストールによるコンポーネントの追加方法と削除方法」を参照してください。</p> <p>Gentran:Server データベース テーブルをすべて削除します。Gentran:Server プログラム グループが削除されたことを確認します。レジストリ エディタで、<code>HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ Sterling Commerce</code> キーが削除されていることを確認します。</p> <p>セットアップを再度実行し、[ 新規の Gentran:Server システムを作成 ] オプションを使用して、データベース テーブルを作成し、それらのテーブルへの権限を付与するために、適切な管理データベース ログインを指定します。新しいシステムを作成する方法の詳細については、「<a href="#">Gentran:Server のインストール</a>」を参照してください。</p>
<p>Gentran:Server エグゼクティブ サービスを、リモートから起動できない。</p>	<p>プライマリ システム コントローラで、[ コントロール パネル ] の [ サービス ] をダブルクリックして [ サービス ] ダイアログ ボックスを表示します。[ Gentran:Server エグゼクティブ サービス ] を選択し、[ 開始 ] をクリックします。</p> <p>サービスがタイムアウトしたり、エラーメッセージが表示される場合は、[ Gentran:Server エグゼクティブ サービス ] を選択し、[ 起動 ] をクリックして、サービスに対して Windows ログインが正しく指定されていることを確認します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) 問題	解決策
<p>Gentran:Server へのログインを試みると、[ユーザー名が見つかりません]という内容のエラーメッセージが表示される。</p>	<p>ユーザー名の大文字と小文字を区別せずに入力した可能性があります(たとえば、「Aaron」を「aaron」と入力した場合)。ユーザー名の大文字と小文字を正しく入力して、再度ログオンを試みてください。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、システムをアンインストールして再インストールする必要があります。インストールされている Gentran:Server コンポーネントをすべて削除してください。詳細については、『管理ガイド』の「インストールによるコンポーネントの追加方法と削除方法」を参照してください。Gentran:Server データベース テーブルをすべて削除します。Gentran:Server プログラムグループが削除されたことを確認します。レジストリ エディタを開いて、<code>HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ Sterling Commerce</code> キーが削除されていることを確認します。</p> <p>インストール時に指定した既定の Gentran:Server システム管理者ログインを使用していることを確認します。</p> <p>管理者ログインを使用してもログインできない場合は、セットアップを再度実行し、[新規の Gentran:Server システムを作成]オプションをオンにして、データベース テーブルを作成し、それらのテーブルへのアクセス権限を付与するために、適切なデータベース管理ログインを指定します。新しいシステムを作成する方法の詳細については、「<a href="#">Gentran:Server のインストール</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

<p>( 続き ) 問題</p>	<p>解決策</p>
<p>セットアッププログラムを実行して、プライマリ システム コントローラのインストールをアップグレードする。このとき、セットアップがデータベース テーブルを更新しようとして、<b>Gentran:Server</b> データベース テーブルへのアクセスを許可されているユーザーまたはユーザー グループの指定を要求するメッセージが表示される。</p> <p>アップグレード処理で、セットアップが [ユーザー [グループ名] は存在しません] という意味のエラーの発生を通知し、データベースの回復を試みるために、自動回復の実行を求めるメッセージを表示する。</p>	<p>存在しないユーザーまたはユーザー グループを指定しました。自動回復プロセスを実行する前に、データベース管理システムに切り替えて、初めに指定したユーザーまたはユーザー グループを作成します。</p> <p>次に、セットアップを再度実行してシステムをアップグレードすると、自動回復によりインストール プロセスのエラー位置が判別されて、その位置からインストールが再開されます。セットアップは、手入力で行われたコマンドのログをすべて保持していますが、実行済みのコマンドを元に戻すことはできません。</p> <p><b>参照</b> システムのアップグレードの詳細については、『管理 ガイド』の「<b>Gentran:Server</b> をアップグレードする方法」を参照してください。</p>
<p>セットアッププログラムを実行して <b>Gentran:Server</b> をインストールしたが、次のエラーが表示される。[Record set is read only] および [Gentran:Server system administrator account could not be created]</p>	<p><b>Gentran:Server</b> 製品と互換性のないバージョンの ODBC ドライバを使用している可能性があります。</p> <p><b>参照</b> <b>Gentran:Server</b> との使用がサポートされている ODBC ドライバのバージョンのリストについては、『インストール 準備 カード』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) 問題	解決策
<p>非クラスタ環境でセットアッププログラムを実行し、[Do you want to make this machine a secondary node in a clustered Gentran:Server system?] というメッセージが表示され、[はい]または[いいえ]の選択を求められる。</p>	<p>このメッセージが表示されるのは、セットアップでこのコンピュータのレジストリを確認した際に、Gentran:Server のレジストリキーが見つかり、Gentran:Server サービスが見つからなかった場合です。これは、クラスタ環境のセカンダリ ノードにシステムをインストールする場合に発生します。非クラスタ環境では、[いいえ]をクリックして、Gentran:Server のインストールを進めます。</p> <p><b>メモ</b> [いいえ]を選択した場合には、セットアップで問題が検出されると、インストールルーチンは終了します。この場合は、Gentran:Server のカスタマサポートにお問い合わせください。</p>

## InstallShield のエラーメッセージ

### はじめに

セットアッププログラムの実行中に表示されたエラーに戻り値コードが含まれている場合は、InstallShield のエラーです。

このセクションでは、一般的な InstallShield のエラー メッセージを示します。InstallShield のエラー メッセージについてのお問い合わせは、Gentran:Server カスタマ サポートにご連絡ください。

### 戻り値コードの表

次の表は、InstallShield の戻り値コードを、コードの値でリストしたものです。この表に、コードと対応するエラー メッセージ、および考えられる原因をまとめます。

#### メモ

これらのメッセージは、InstallShield から提供されたものです。最新のバージョンではない可能性があります。

戻り値コード	エラー メッセージ
-1	不明なエラー。
-2	入力ファイルが開けません。
-3	出力ファイルが開けません。 <b>可能な解決策</b> コピー先フォルダの内容、コピー先フォルダ内のファイルの存在、およびコピー先フォルダへのアクセス権限を確認してください。
-4	ファイルへの書き込みを実行できません。 <b>可能な解決策</b> コピー元とコピー先のディスクの整合性を確認してください。正しいコピー元ディスクが選択されていることを確認してください。
-5	入力ファイルは InstallShield Compressor で圧縮されていません。 <b>可能な解決策</b> 入力ファイルが InstallShield Data Compression Program または InstallShield で作成された圧縮済みライブラリであることを確認してください。  (次のページへ続く)

( 続き ) 戻り値コード	エラー メッセージ
-6	メモリ割り当てエラー。 <b>可能な解決策</b> 内部エラーが発生しました。システムを再起動してから、再び試みてください。
-7	圧縮ファイルのヘッダー情報が不正です。 <b>可能な解決策</b> ファイルが圧縮されていること、および壊れていないことを確認してください。
-8	複数の圧縮ライブラリを展開することはできません。 <b>可能な解決策</b> 展開される入力ファイルの指定にワイルドカード文字が使用されていないことを確認してください。
-9	コピー元フォルダとコピー先フォルダが同じです。 <b>可能な解決策</b> コピー先フォルダとコピー元フォルダが同じではないことを確認してください。
-14	指定された入力ファイルはワイルドカードです (一部の API では許可されません)。 <b>可能な解決策</b> 必ず入力が特定のファイルであり、ワイルドカードではないようにしてください。
-15	指定された出力ファイルはワイルドカードです (一部の API では許可されません)。 <b>可能な解決策</b> 必ず出力が特定のファイルであり、ワイルドカードではないようにしてください。
-16	ライブラリ圧縮エラー。
-17	内部ポインタ エラー。
-18	ファイル サイズ エラー。
-19	リンク リスト エラー。
-20	出力ファイルを InstallShield Compressor で圧縮できません。 <b>可能な解決策</b> 必ず出力が圧縮ライブラリであるようにしてください。  (次のページへ続く)

( 続き ) 戻り値コード	エラー メッセージ
-21	ファイルは古いバージョンの圧縮プログラムで圧縮されています。 <b>可能な解決策</b> 互換性のある InstallShield compressor を使用してください。
-22	has テーブル内でエラーが発生しました。
-24	フォルダ情報が不正です。
-25	不正なスイッチ ( オプション ) が使用されています。
-26	不正なデータ情報。
-27	フォルダを作成できません。 <b>可能な解決策</b> コピー先フォルダの内容と、ドライブおよびコピー先フォルダへのアクセス権限を確認してください。
-28	照会情報エラー。
-29	FileSet の定義でエラーが発生しました。
-30	ファイルは分割されています。 <b>可能な解決策</b> 本来の圧縮ライブラリを使用してください。
-32	内部プロセスを開始できません。
-33	内部エラー。
-34	内部エラー。
-36	プライベート オブジェクト エラー。
-37	ファイル転送プロセスが中止されました。
-38	コピー先ドライブの空き容量が不足しています。 <b>可能な解決策</b> コピー先ドライブの空き容量を増やしてください。
-39	パッケージング リストにファイルが見つかりません。
-40	圧縮ライブラリ バックアップ エラー。 <b>可能な解決策</b> コピー先ドライブの空き容量を増やしてください。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) 戻り値コード	エラー メッセージ
-41	指定されたファイルは圧縮ライブラリではありません。
-42	ファイルは圧縮ライブラリではありません。
-46	コピー先ファイルは読み取り専用です。 <b>可能な解決策</b> コピー先ファイルは読み取り専用なので上書きできません。
-47	内部メモリ エラー。

---